

統合する

*IBM Power S1112 (9242-21B および
9242-21T) の設置*



注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、v ページの『安全上の注意』、63 ページの『特記事項』、「*IBM* システムの安全上の注意」資料、G229-1110 および G229-9054、および「*IBM* 環境に関する注意事項およびユーザーズ・ガイド」Z125-5823 に記載されている情報をお読みください。

このエディションは、POWER11 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーと、関連するすべてのモデルに適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 2026.

目次

安全上の注意.....	v
9242-21T(9242-21B および)サーバーの IBM Power S1112 インストール.....	1
ラック・ベースのサーバーの設置.....	1
ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件.....	1
サーバー用の部品の用意.....	1
ラック内の位置の決定およびマーク付け.....	2
ラックへの取り付け用ハードウェアの取り付け.....	6
ラックへのシステムの設置.....	13
サーバーのケーブル配線.....	15
サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ.....	16
ケーブル配線.....	26
サーバーのセットアップの完了.....	29
スタンドアロン・サーバーの設置.....	33
スタンドアロン・サーバーの設置の前提条件.....	33
スタンドアロン型サーバー用の部品の用意.....	33
設置場所へのサーバーの移動.....	34
サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ.....	34
サーバーのセットアップの完了.....	45
事前に取り付けられたサーバーのセットアップ.....	47
事前取り付け済みサーバーの設置の前提条件.....	47
事前取り付け済みサーバー用の部品の用意.....	48
配送用ブラケットの取り外しおよび事前取り付け済みサーバー用の電源コードと電力配分装置 (PDU) の接続.....	48
使用するコンソールの決定.....	49
サーバーのセットアップの完了.....	59
特記事項.....	63
IBM Power サーバーのアクセシビリティ機能.....	64
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	65
商標.....	65
電波障害自主規制特記事項.....	66
クラス A 表示.....	66
クラス B 表示.....	69
使用条件.....	71

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部分として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この資料には、安全上の注意が各国語で米国語のソースへの参照とともに記載されています。英語のソース。米国語の資料を使用してこの製品の取り付け、操作、または保守を行う前に、まず関連する安全上の注意に関する資料をよく理解しておく必要があります。また、米国語の資料の安全上の注意を明確に理解していない場合はいつでも、安全上の注意に関する資料を参照してください。英語の資料。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

ドイツの安全情報

Das Produkt ist nicht für den Einsatz an Bildschirmarbeitsplätzen im Sinne § 2 der Bildschirmarbeitsverordnung geeignet.

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。



危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を避けるため、IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。電源装置アセンブリを開いたり、保守しないでください。雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。



- 製品には、複数の電源コードが装備されている場合があります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性が使用されていることを確認してください。

- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。
- マシンの検査を実行する際は、電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、以下の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

電源を切るには、1) すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。2) AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。3) DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。4) シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。5) すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

接続するには、1) すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。2) すべてのケーブルをデバイスに接続します。3) シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。4) AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。5) DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。6) デバイスの電源をオンにします。



- システム内およびシステム周辺に鋭利な先端、角、およびジョイントが存在する可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):



危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- 地震オプションを取り付ける場合を除き、ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください (提供されている場合)。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに搭載された装置に寄りかかったり、身体の位置を安定させるためにそれらを使用したり (例えば、はしごから作業する場合) しないでください。



- 安定度の危険:
 - ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
 - ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
 - 取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。

- スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。
- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。
 - AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。(R001 パート 2 の 1)

(R001 パート 2 の 2):



注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れるために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合や、ラックが床にボルトで留められていない場合、ドロワーやフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。複数のドロワーを同時に引き出すと、ラックが不安定になることがあります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。(R001 パート 2 の 2)



注意: ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ・ ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置 (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) 以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) のレベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがほとんどないことを確認します。
- ・ 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- ・ 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- ・ 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- ・ 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- ・ すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 2083 mm 以上であることを確認します。
- ・ すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- ・ 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- ・ 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- ・ 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ・ ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、以下の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - ラック・キャビネット上にスタビライザー・ブラケットを取り付けるか、地震環境ではラックを床にボルトで留めます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- ・ 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



危険：このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)

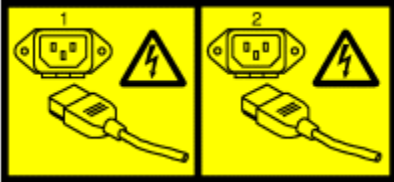


危険：ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄り掛かったり、(はしごに乗って作業している場合などに) 体の位置を安定させるためにそれらの装置を使用したりしないでください。安定度の危険:

- ・ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
- ・ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
- ・取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
- ・スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。

(L002)

(L003)



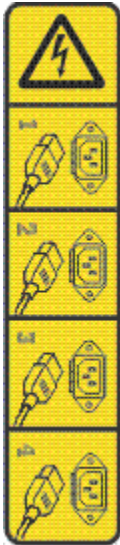
または



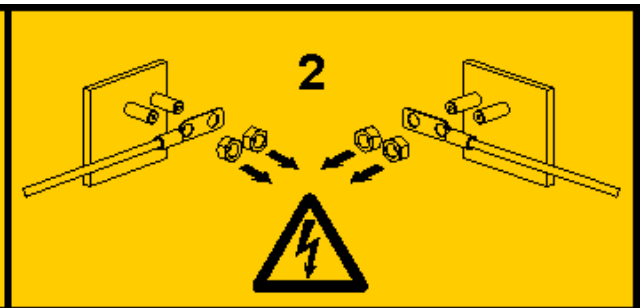
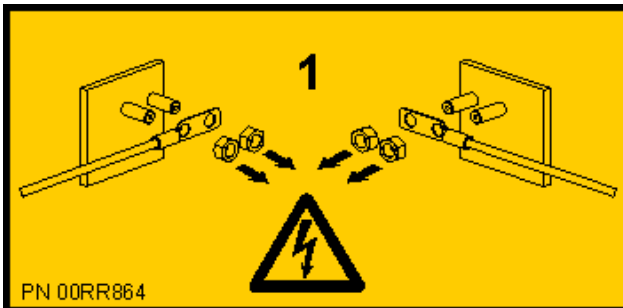
または



または



または



 **危険:** 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L007)



 **注意:** 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意：近くに危険な可動部品があります。(L008)

(L018)



または



注意：高レベルの音響ノイズが存在します(特定の状況下では存在する可能性があります)。承認を受けた聴覚保護を使用するか、もしくは緩和を実現するか露出を制限する(あるいはその両方)を行ってください。(L018)

(L031)



注意：



エンクロージャーの保全性

- ・アクセス・カバーは、ときどき取り外すためのみを意図したものです。
- ・稼働中または一時的なサービス中に開ける場合は、資料の手順に従ってください。
- ・サービスが完了したら、適切に稼働できるように、ただちにすべてのカバー、ふた、および/またはドアを再取り付けします。(L031)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国ではレーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。



注意：この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- ・カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- ・本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)



注意: データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んでも目に損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)



注意: この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。(C028)



注意: 一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の情報に注意してください。

- ・カバーを開くとレーザー光線の照射があります。
- ・光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

(C030)



注意: このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ・水に投げ込む、あるいは浸す
- ・100°C を超えて加熱
- ・修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。アメリカ合衆国では、IBM がバッテリー 収集を実施しています。詳しくは、1-800-426-4333 までお電話ください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)



注意: IBM 提供のベンダー・リフト・ツールについて:

- ・リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- ・リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するためのものです。これは、装置を装着して大きなスロープを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- ・リフト・ツールを使用する前に、作業用の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの Web サイトから入手可能です。
- ・使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- ・スタビライザー (ブレーキ・ペダル・ジャック) が完全に固定されていない限り、プラットフォーム積載棚を上下左右に動かしてはなりません。使用も移動もしていない場合は、スタビライザーのブレーキを固定したままにしてください。
- ・わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- ・定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。

- ・積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの棚の端には、91 kg を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- ・プラットフォーム、傾斜ライザー、角度のあるユニット設置ウェッジ、その他の付属品オプションの隅に荷重をかけないでください。そのようなプラットフォーム (ライザー傾斜、ウェッジなどのオプション) は、使用する前に、提供されたハードウェアのみを使用して 4 つの位置すべて (4x またはその他のプロビジョン取り付け) にあるメイン・リフト棚または分岐点に固定します。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押したり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜 (調整可能な角度プラットフォーム) オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平らな状態を維持してください。
- ・突き出した積載の下には立たないでください。
- ・表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- ・装置を積み重ねないでください。
- ・薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。
- ・リフト・ツールに対して踏み台で支えてはなりません (このツールを使用した高さでの作業に対して認定された手順に従うものに特定のあそびが設けられている場合を除く)。
- ・倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押ししたり寄り掛かったりしてはなりません。
- ・人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- ・リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- ・マストに登ってはなりません。
- ・損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- ・プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まったりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。
- ・フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- ・マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリンクラー、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- ・装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- ・装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。
- ・ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ・ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。
- ・このツールは、IBM サービス担当員が使用するために、適切に維持する必要があります。IBM は、操作の前に状態を検査し、保守履歴を確認します。担当者は、不足がある場合に、このツールを使用しない権利を有します。(C048)



注意: この装置は、子どもがいる可能性の高い場所での使用には適していません。(C052)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するように設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

9242-21T(9242-21B および)サーバーの IBM Power S1112 インストール

9242-21T この情報を参考にして、(9242-21B および)サーバーの IBM Power S1112 インストール方法について確認してください。

ラック・ベースのサーバーの設置

ここでは、ラック・ベースの設置の取り付けについて説明します。

ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件

ここでは、サーバーの設置に必要な前提条件を説明します。

このタスクについて

サーバーの設置を始める前に、以下の資料を読むことが必要な場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで保守されています。(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_roadmap.htm)参照 [の IBM Power S1112 インストール \(9242-21B および 9242-21T\)。](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_roadmap.htm)
- サーバーの導入を計画するには、[計画](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ia4/p11ia4_kickoff.htm)を参照してください (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ia4/p11ia4_kickoff.htm)。
- HMC のアップデートおよび修正プログラムをダウンロードするには、[Hardware Management Console のサポートおよびダウンロードサイト](https://www.ibm.com/support/pages/hardware-management-console-support-and-downloads) (https://www.ibm.com/support/pages/hardware-management-console-support-and-downloads) をご覧ください。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

手順

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。
 - プラス・ドライバー
 - マイナス・ドライバー
 - 六角ドライバー (5mm)
 - EIA 規格の 2U スペースに対応したラック
2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。
 - HMC バージョン 11 リリース 2.0 以降。
 - グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
 - テレタイプ (tty) モニターとキーボード

サーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

このタスクについて

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。

2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

ラック内の位置の決定およびマーク付け

システム装置をラックに取り付ける場所を決定することが必要になる場合があります。

このタスクについて

システムをラックに取り付ける場所を決定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. ラックの安全に関する注意 (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hbf/p11hbf_racksafety.htm) をお読みください。
2. システムユニットをラック内のどこに配置するかを決定します。システム装置をラック内に取り付けるための計画を立てる際に、以下の情報について検討してください。

- 大きくて重いシステム装置を、ラックの下段に設置します。
- 最初に、ラックの下の方の段からシステム装置を取り付けるように計画します。
- 計画に EIA (Electronic Industries Alliance (米国電子工業会)) の位置を記録します。

注: このサーバーは EIA 規格で 2U の高さです。1 EIA 単位は 44.45 mm (1.75 インチ) の高さです。ラックには、1 EIA 単位の高さにつき 3 つの取り付け穴があります。

3. 必要に応じて、装置を設置する計画のラック・エンクロージャー内にアクセスできるようにフィラー・パネルを取り外します。

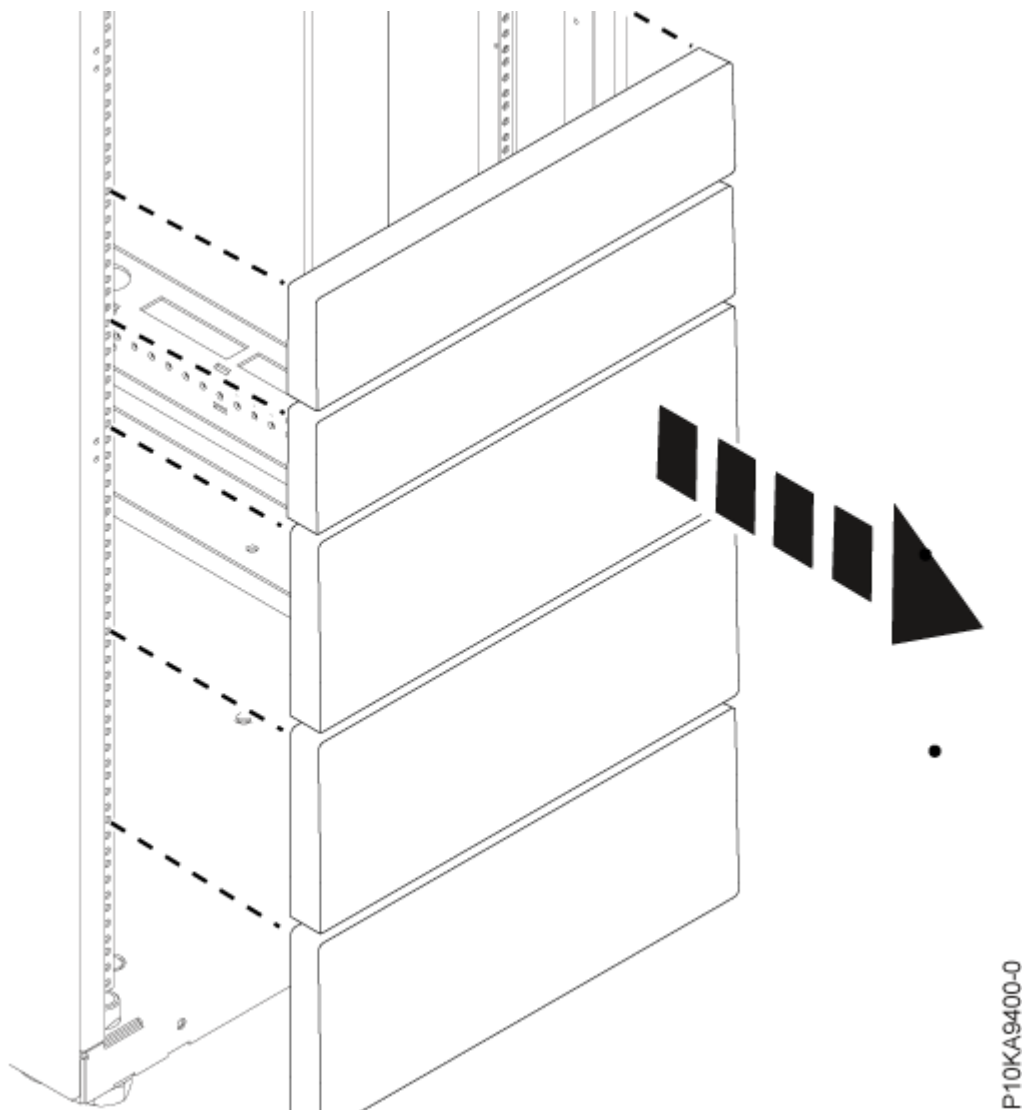


図 1. フィラーパネルの取り外し

4. システムを取り付けラック内のどこに取り付けるかを決定します。EIA の位置を記録します。

注：ご使用のラックでの 1 EIA 単位は、3 つの穴のグループで構成されています。

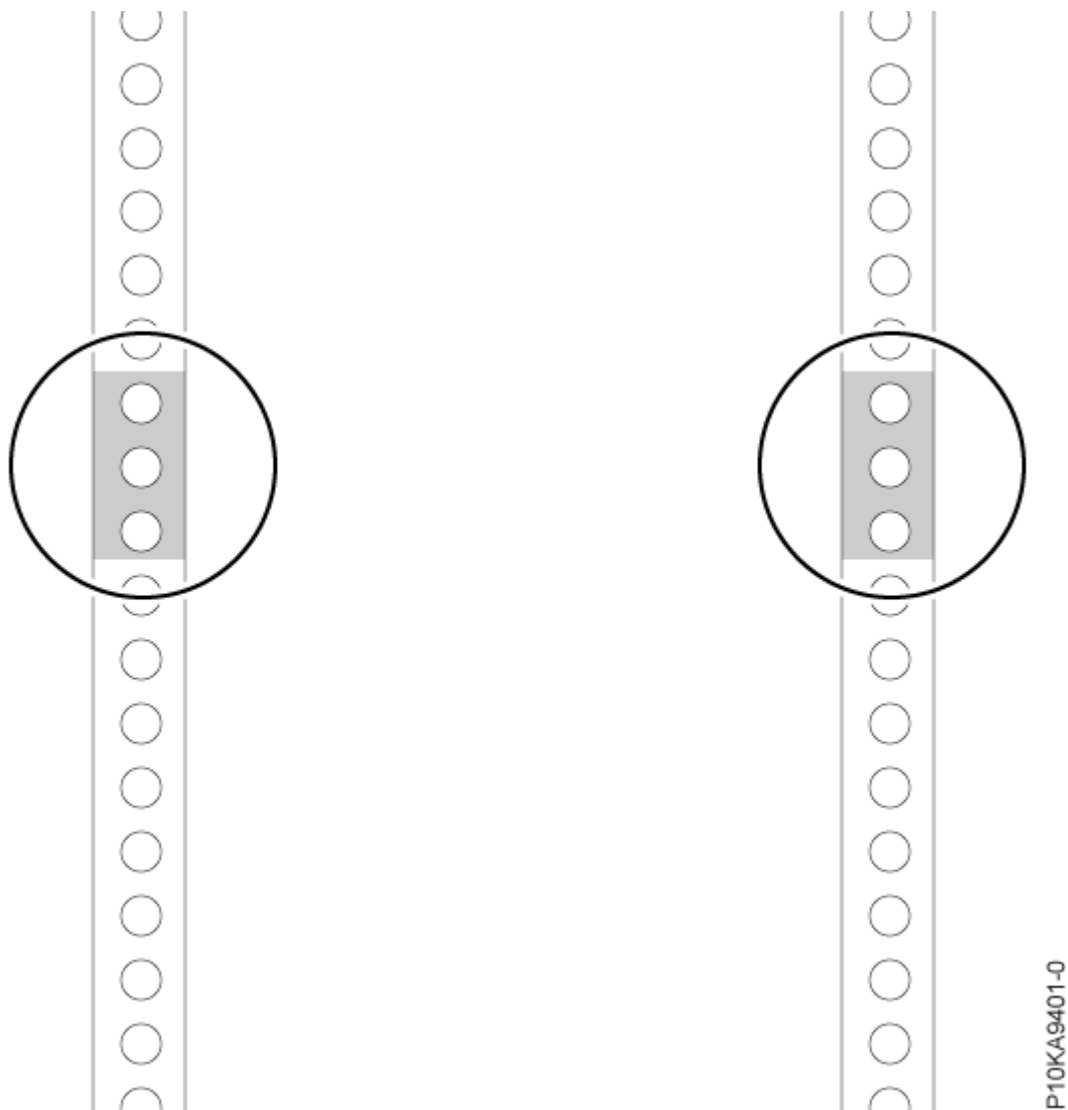


図 2. EIA ユニットの例

5. ラックの正面を向き、ラックの右側から作業を開始し、テープ、マーカー、または鉛筆を使って、最も高い EIA ユニットの上部の穴に印を付けます。次に、この EIA ユニットの真下にある EIA ユニットの最も下の穴に印を付けます。

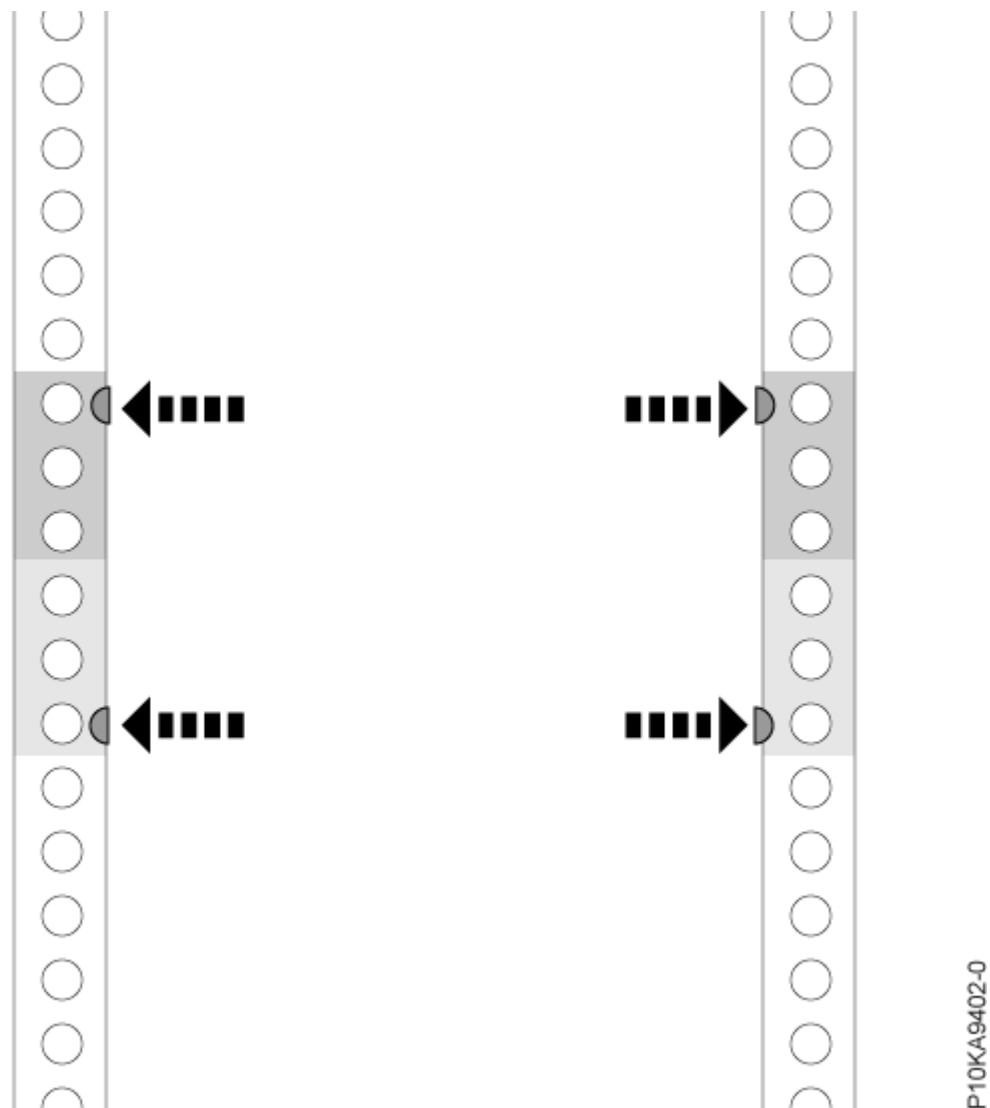


図 3. ラックのフランジ穴の印付け

6. ラック左側の対応する穴に対してもステップ 4 ページの『5』を繰り返します。後の工程で、これらのマークされたラックフランジの穴の間にレールを取り付けます。

次の図は、あなたが（**1**）とマークした最も高い位置と、（**2**）とマークした最も低い位置を示しています。レールピン（**3**）と（**4**）はラックのフランジを貫通します。その後の手順で、レール（**5**）と（**6**）の各ねじ穴にネジを取り付けます。

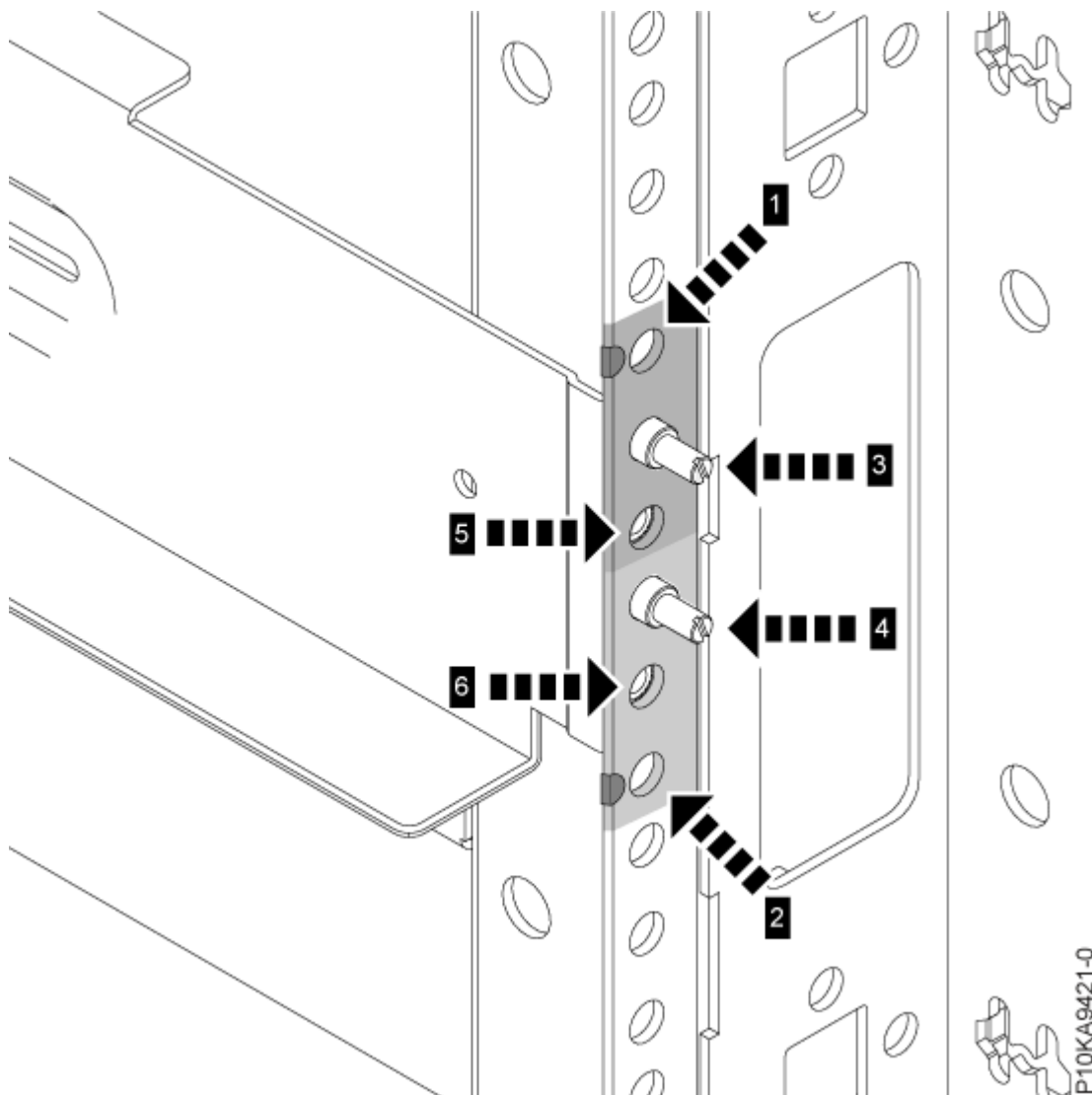


図 4. レールピンとねじ穴の位置

7. ラックの背面に回ります。
8. 右側で、ラックの前面にマークされている最上部の EIA ユニットに対応する EIA ユニットを探してください。
9. EIA ユニットの最上部の穴と、上から 3 番目の穴に印を付けてください。
10. ラック左側の対応する穴にマークを付けます。ここに、ラックレール用のピンを取り付けることになります。

ラックへの取り付け用ハードウェアの取り付け

取り付け用ハードウェアをラックに取り付ける必要がある場合があります。この作業を実行するには、次の手順を使用します。この情報は、安全で信頼できる操作を促進するために提供されており、関連するハードウェア・コンポーネントの図も記載され、それらのコンポーネント間の相互関係が示されています。

このタスクについて

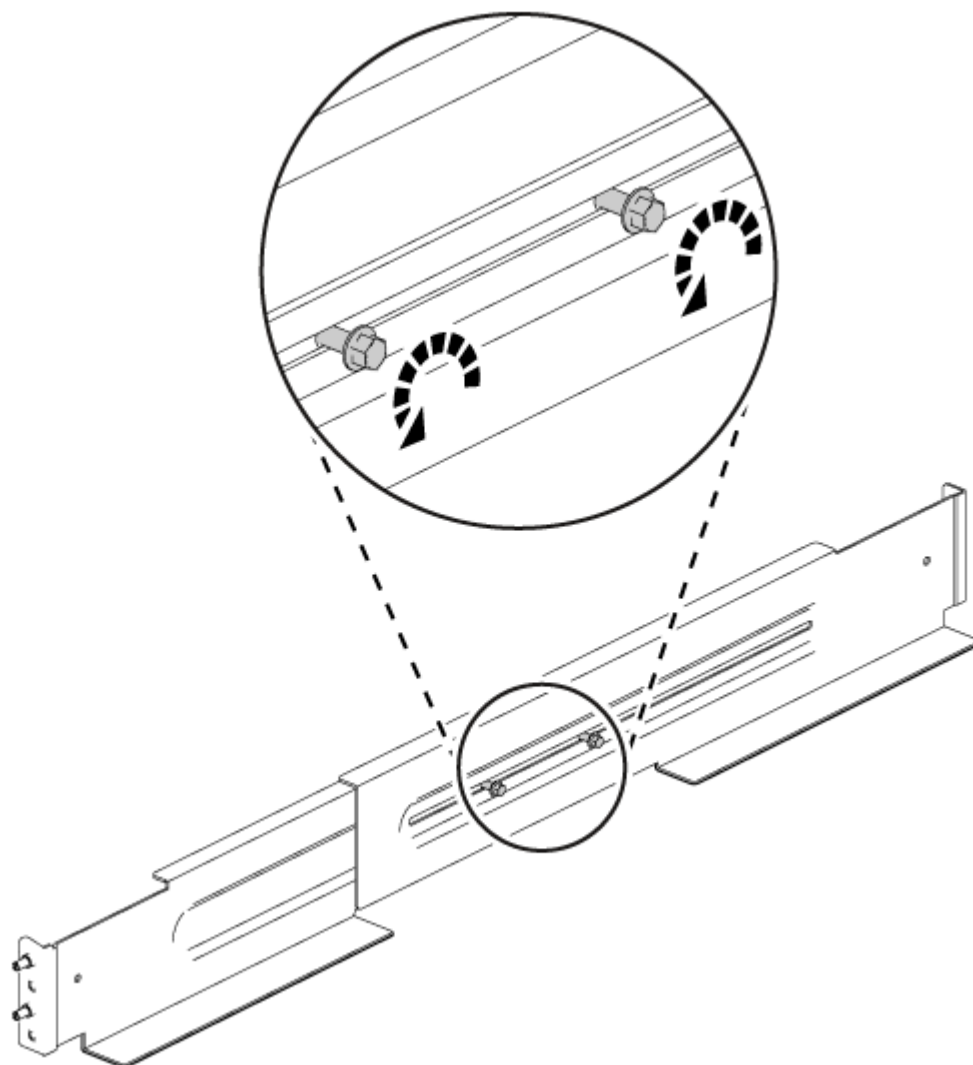


重要: レールに不具合が生じたり、ご自身とシステム装置に危険が生じるのを避けるために、ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具を使用していることを確認してください。ご使用のラックに支持フランジ用の四角い穴または支持フランジ用のねじ穴がある場合、レールと取り付け具が、ラックで使われている支持フランジ用の穴に一致することを確認してください。一致しないハードウェアをワッシャーまたはスペーサーを使用して取り付けしないでください。お使いのラックに合ったレールや金具がない場合は、販売店にお問い合わせください。

ラック取り付け用ハードウェアをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. 5mm の六角ドライバーを使用して、レールを緩め、出し入れできるようにします。



P10KA9403-0

図 5. レールを緩める

2. ラックの正面に立ち、左側のレール端にある位置決めピンを、ラックの背面にあらかじめ印をつけた穴に合わせます。

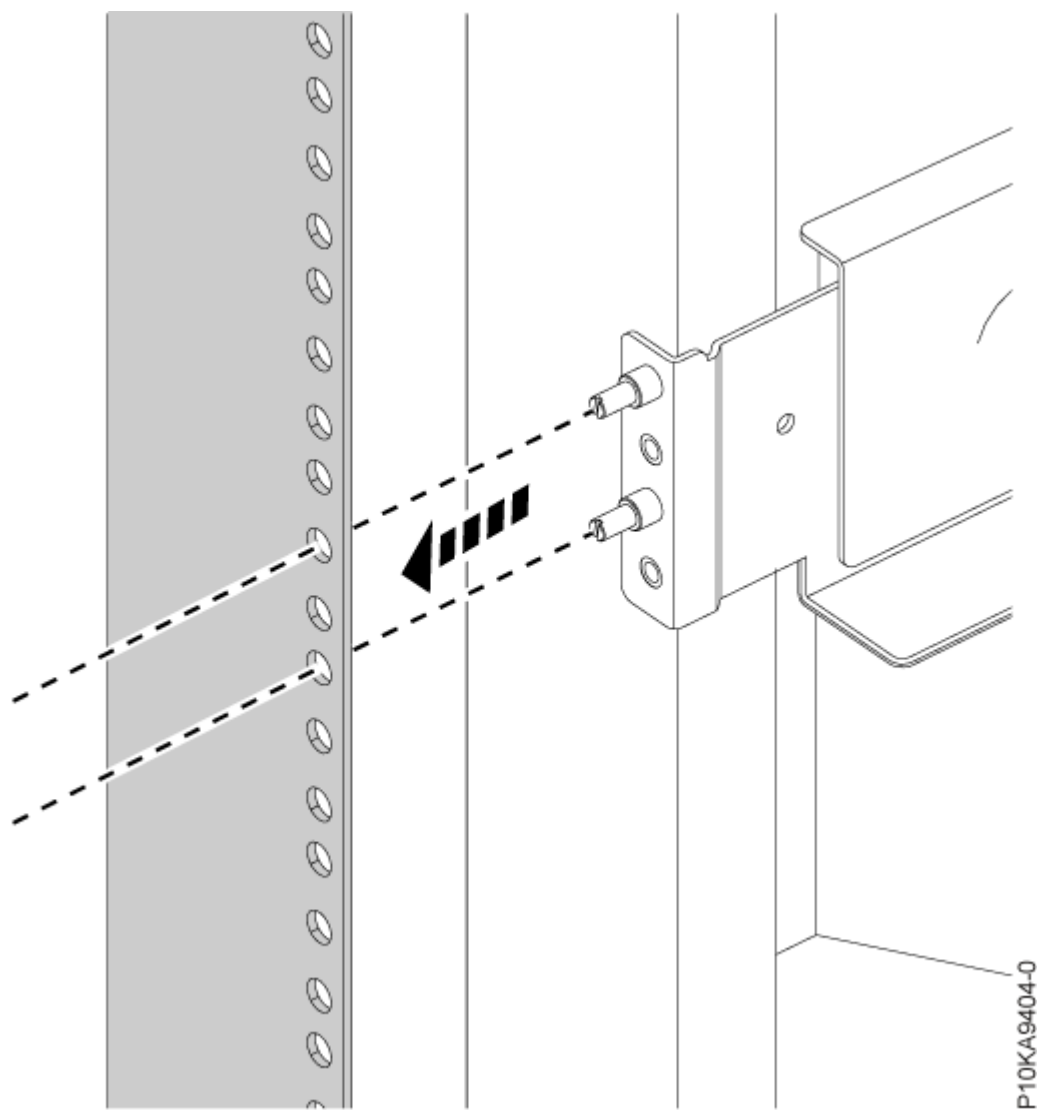


図 6. 位置決めピンを、ラック背面の印付き穴に合わせます

3. レールをラックのフランジに押し込み、ピンがマークしたラックのフランジ後部の穴から突き出るまで押し込んでください。

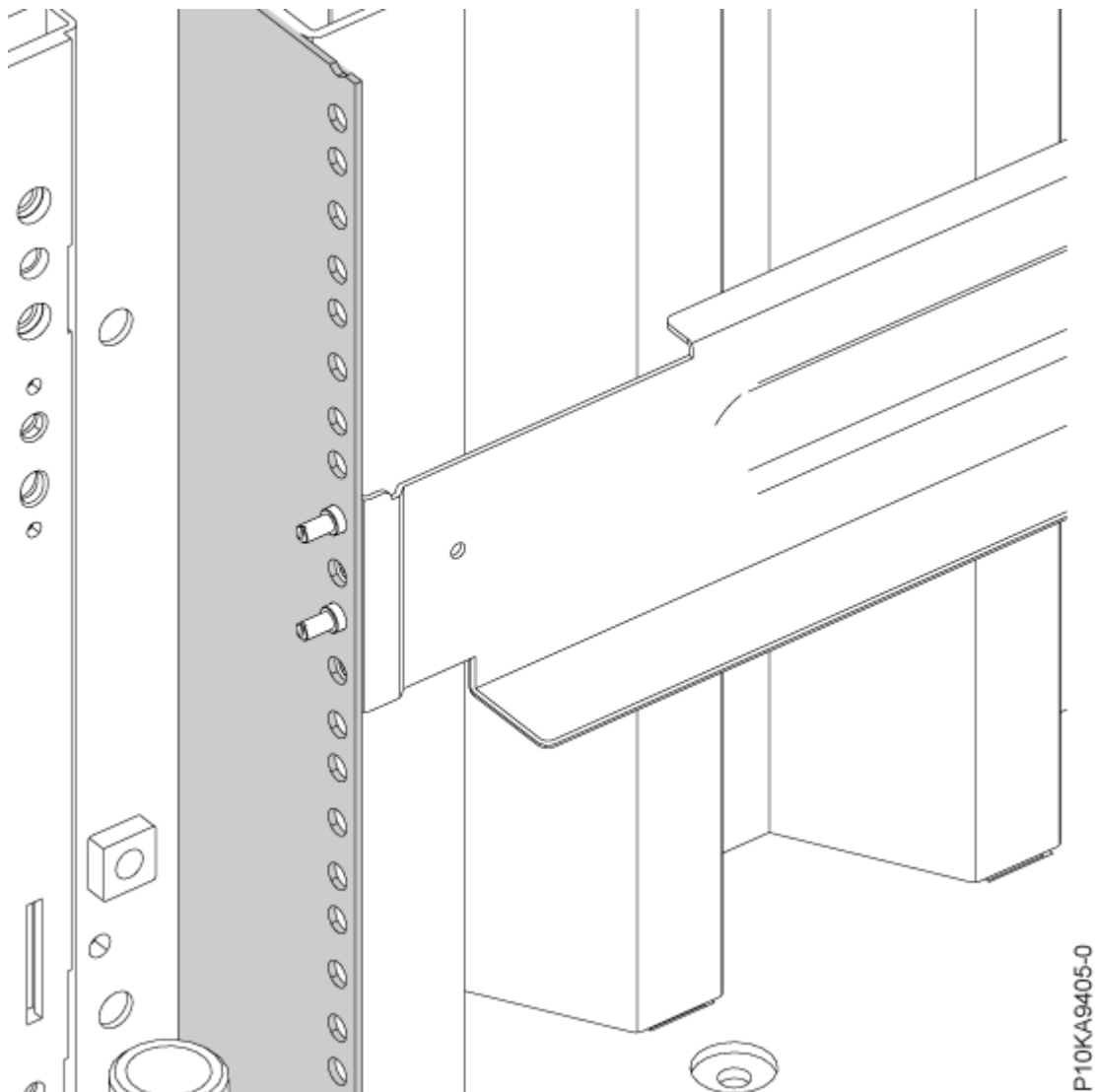


図 7. レールをラックのフランジ穴に押し込む

4. レールの前半分を、位置決めピンがラックの前部フランジの穴から突き出るまで、ラック前方に向かって伸ばします。なお、一番上のレールピンは、マークしたラックフランジの穴の一番下にある穴に通すようにしてください。

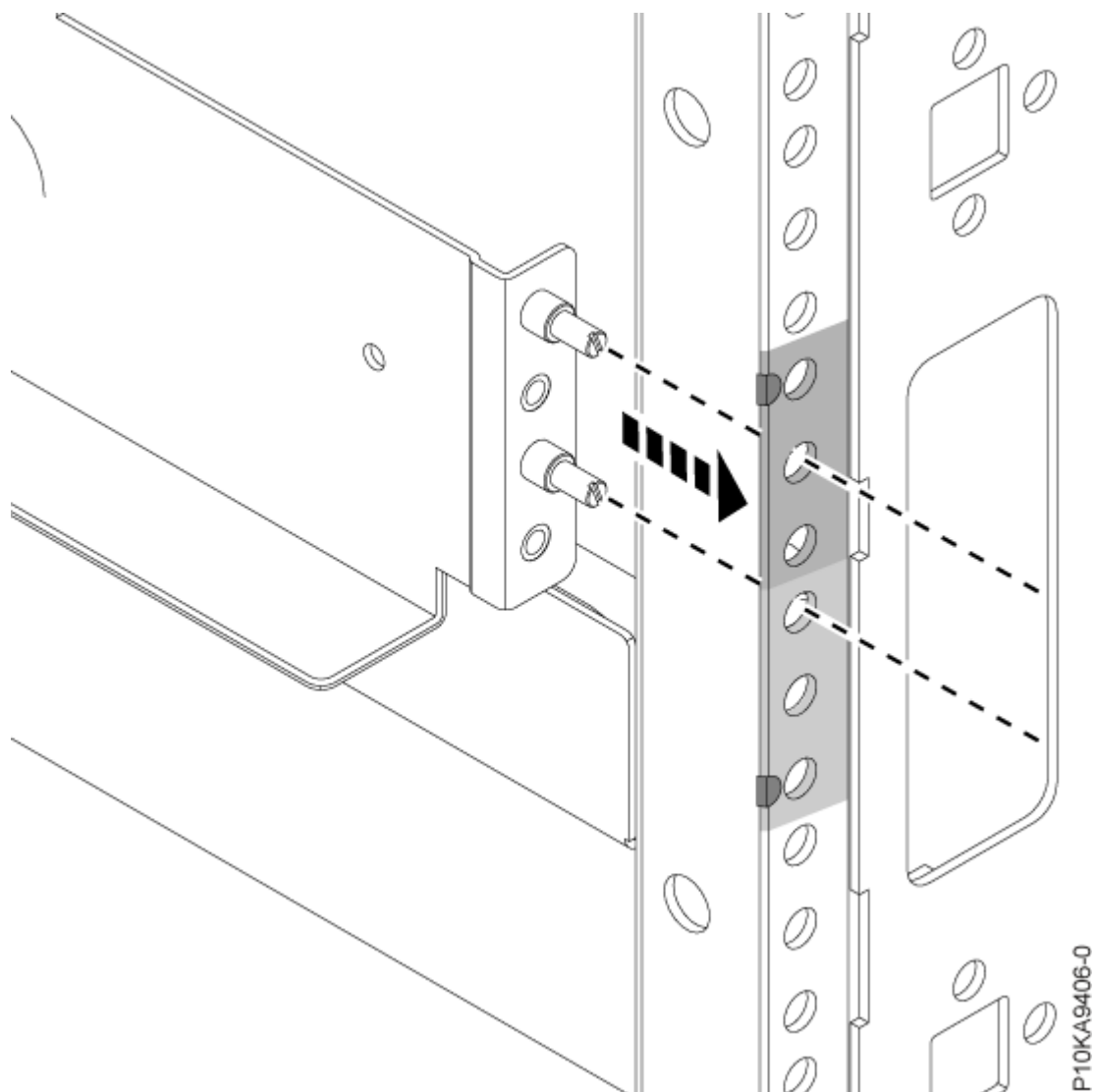


図 8. レールの前端をラックの前端に向かって伸ばす
5. 内側のレールの止めネジを締めてください。

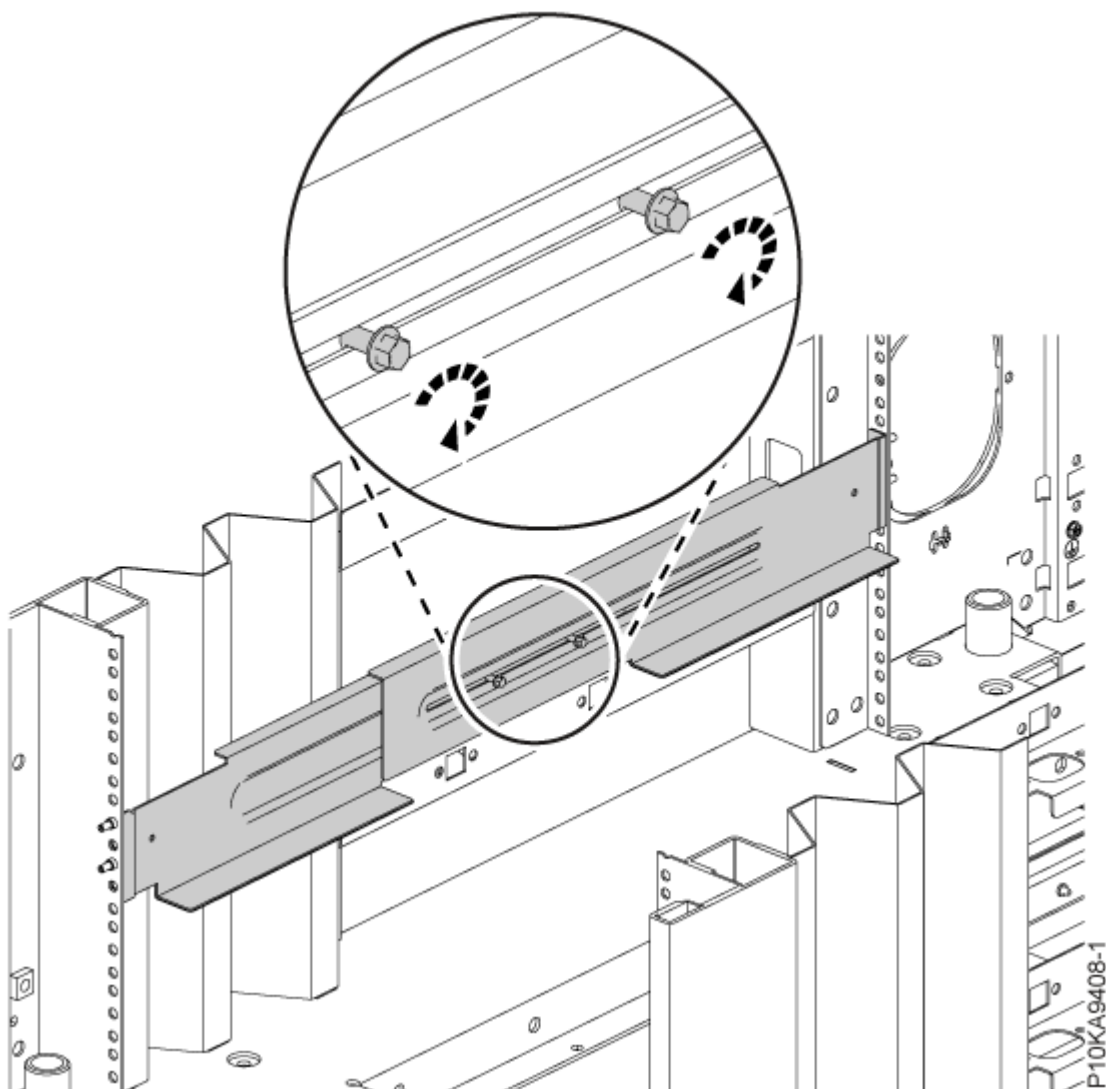


図 9. 内側のレールの止めネジを締める

6. 上記ステップを右レールに対して繰り返します。
7. 各レールの位置決めピンの間に M5x10L ネジを 1 本ずつ取り付けて、左側のレールをフロントラックのフランジに取り付けます。
8. 各レールの位置決めピンの間に M5x10L ネジを 1 本ずつ取り付けて、右側のレールをフロントラックフランジに取り付けます。

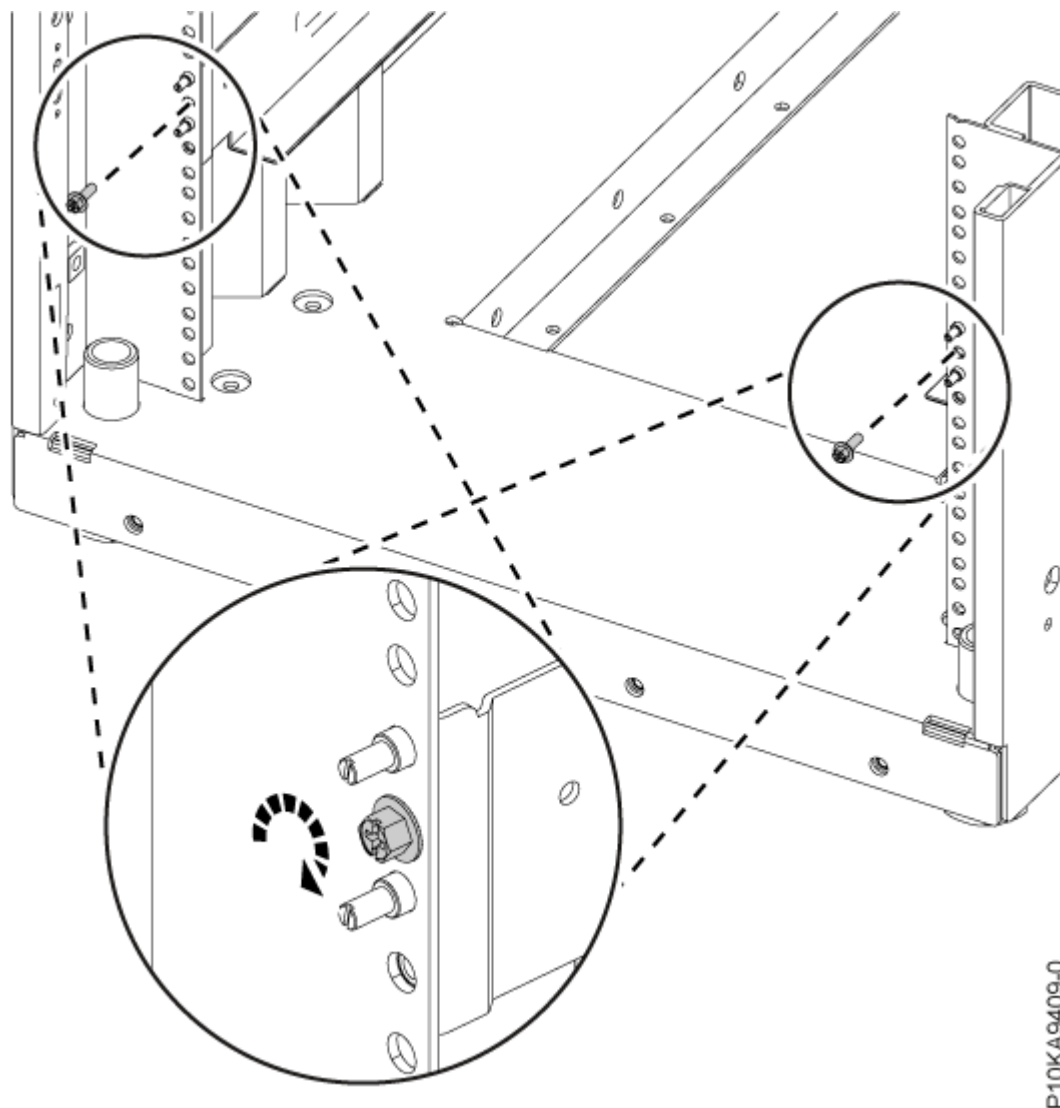


図 10. ラック前面へのレールの取り付け

9. ラックの背面に移動します。
10. 2本のネジで、左側のレールをラックの後部に取り付けます。2本の位置決めピンの下にある穴に、それぞれ M5x10L ネジを1本ずつ取り付けてください。
11. 2本のネジで、右側のレールをラックの後部に取り付けます。2本の位置決めピンの下にある穴に、それぞれ M5x10L ネジを1本ずつ取り付けてください。

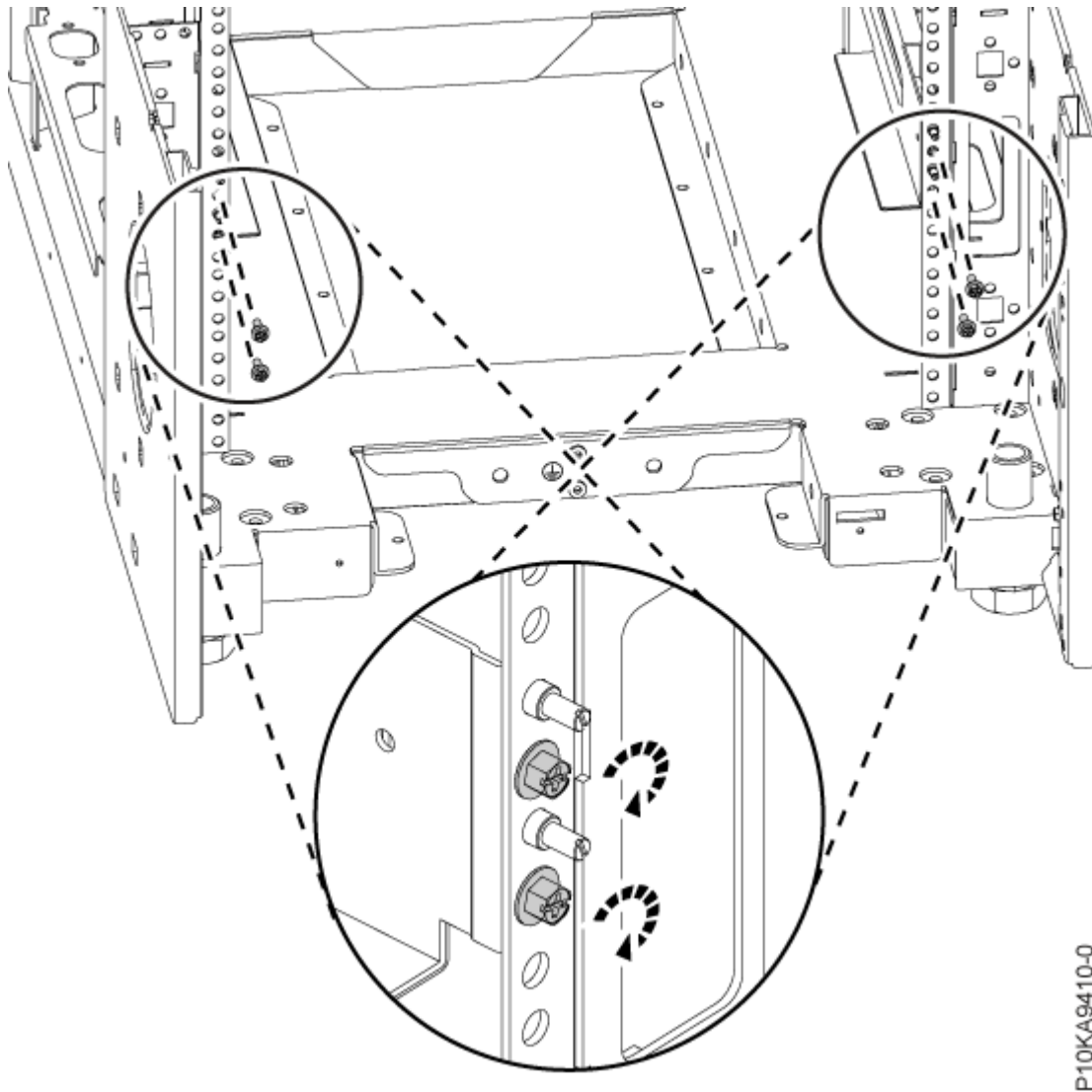


図 11. ラック後部にレールを取り付ける

ラックへのシステムの設置

システムをラックに設置するには、この手順を実行します。

このタスクについて



重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
- ESD リスト・ストラップを使用する場合は、すべての電気安全手順に従ってください。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。



注意: このシステムをラックに設置するには、2 人必要です。

このシステムをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. ラックの正面に立ち、システムシャーシをレールに沿ってスライドさせ、システムシャーシの前面フランジがラックの前面フランジに接触するまで押し込みます。システムのピンがラックのフランジと面一になるようにしてください。

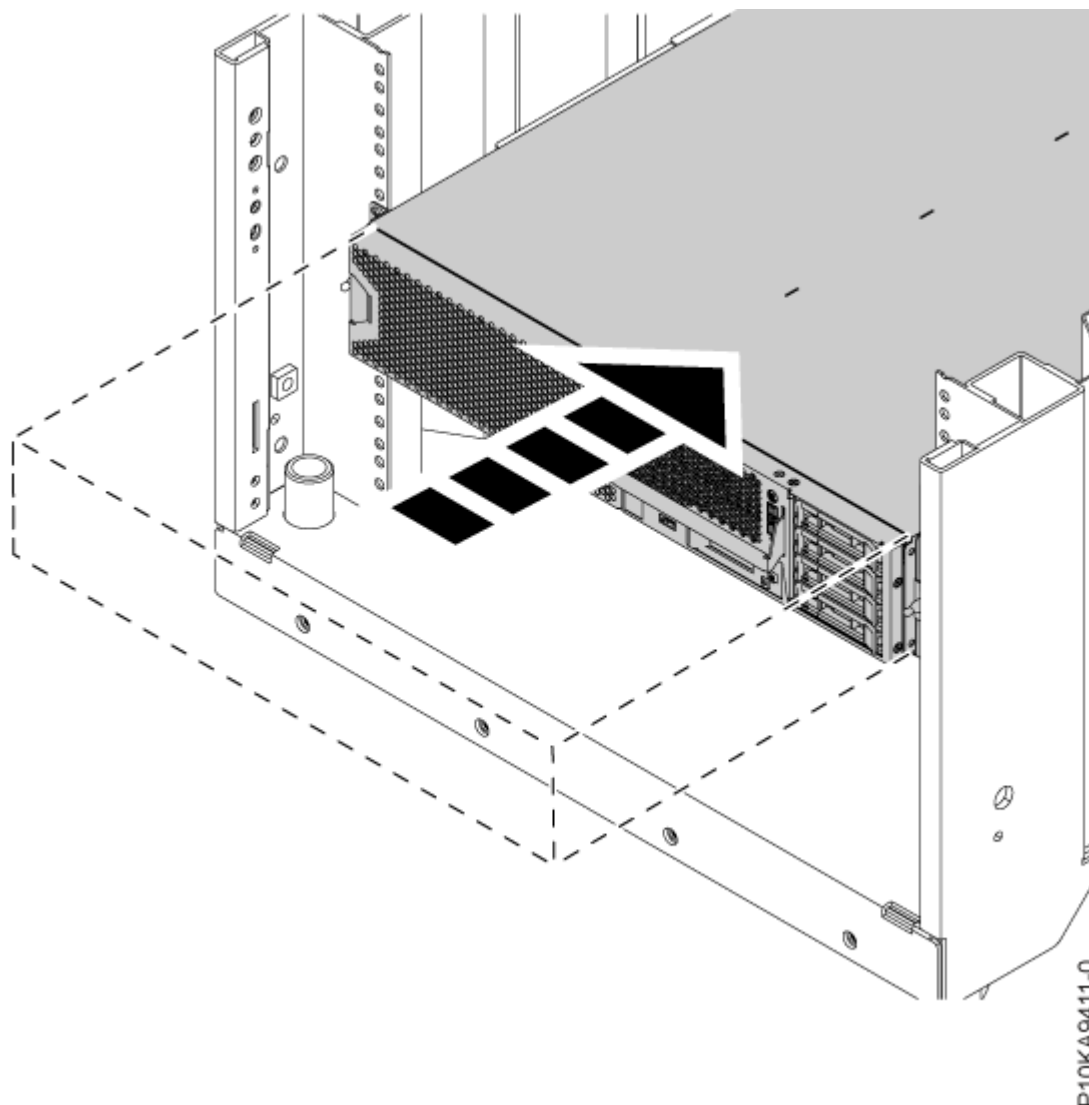
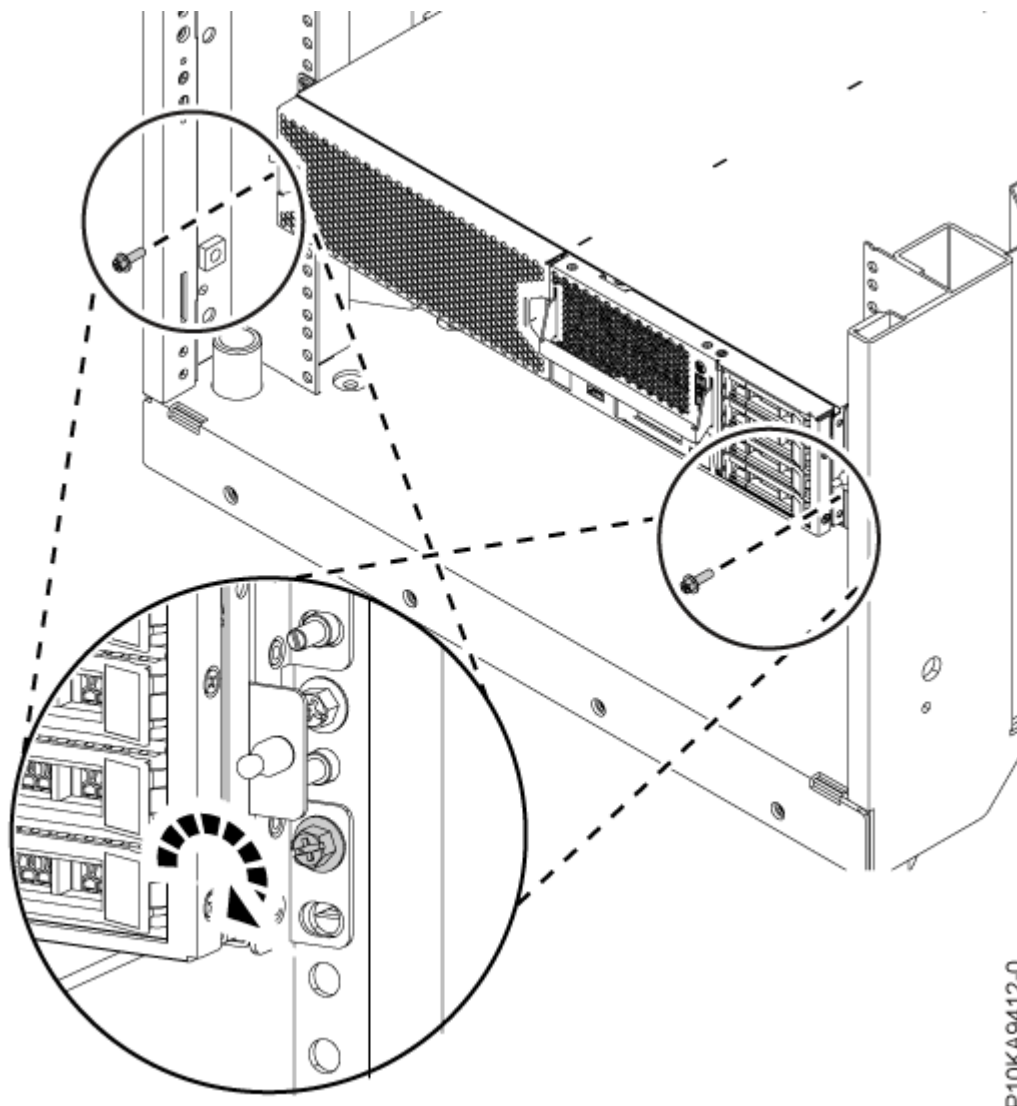


図 12. システムシャーシをレールに乗せる

2. システムシャーシの両側にある 2 番目の EIA ユニットの、最後から 2 番目の穴に、M5x10L ネジを 1 本ずつ取り付けます。



P10KA9412-0

図 13. システムシャーシの両側にある 2 番目の EIA ユニットの、最後から 2 番目の穴にネジを取り付ける

サーバーのケーブル配線

サーバーのケーブル配線の方法を説明します。

このタスクについて

サーバーのケーブル接続を行うには、以下の手順を実行します。

手順

- 電源コードのプラグを電源機構に差し込みます。

注: システムの背面にあるポートを覆っているプラグがある場合は、取り外して廃棄してください。ポート・カバーがあると、初期プログラム・ロード (IPL) の完了後に管理対象システムの管理者パスワードのリセットが必要であることを必ず思い出します。

- システム電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードを電源に差し込みます。
- システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、以下の手順を完了します。

- システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。

- ii) PDU 入力電源コードを接続し、電源に差し込みます。
- iii) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、以下の手順を実行します。
 - システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - ご使用のシステムに 4 つの電源装置がある場合は、E0 および E1 を **PDU A** に、E2 および E3 を **PDU B** に接続します。

注：システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

システムを管理できるようにするための eBMC へのアクセス

IBM® Power Systems サーバーは、システム・サービスの管理、モニター、保守、および制御にエンタープライズ・ベース・ボード管理コントローラー (eBMC) を使用します。eBMC は、システム・イベント・ログ・ファイル (SEL) へのアクセスも提供します。eBMC は、センサーを使用してシステムの物理状態をモニターする特殊なサービス・プロセッサです。システム管理者またはサービス担当員は、独立した接続を介して eBMC と通信できます。

HMC を使用して eBMC にアクセスする

HMC を使用して eBMC にアクセスする方法について学びましょう。

このタスクについて

HMC を使用して eBMC にアクセスするには、この手順に従ってください。

注：HMC を使用して eBMC でシステムを管理するには、HMC がバージョン 10 リリース 3.0 以降である必要があります。

手順

1. HMC 上で DHCP サーバーとして有効になっているポートを特定し、新しいシステムを管理対象システムのネットワークに接続してください。
2. 電源ケーブルの一方の端をシステム背面の電源に接続し、もう一方の端を給電部に接続します。
3. HMC がシステムを検出し、デフォルト名を割り当てます。この名前は使用している DHCP IP アドレスから小数部分を除いたものです。eBMC には「**認証待ち**」の状態が表示されます。
4. HMC がシステムの認証および管理に使用する ID とパスワードの設定を求められます（デフォルトのパスワードは有効期限が切れています）。これは、ASMI へのアクセスに使用する ID とパスワードと同じです。システムパスワードを設定するには、eBMC を選択し、**[Actions] > [Update System Password]** を選択します。
5. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。
6. 「**システム・アクション**」> 「**VMI 構成**」を選択します。ネットワークインターフェースを選択し、**[変更]** を選択します。

注：「**T1**」を選択してください。
7. 「**DHCP**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
8. HMC を使用してシステムの電源をオンにします。システムの電源を入れるには、以下の手順に従ってください：
 - a. ナビゲーション領域で、「**リソース**」> 「**すべてのシステム**」を選択します。
 - b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。

c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」>「操作」>「電源オン」を選択します。

HMC を使用せずに eBMC にアクセスする

HMC を使用せずに eBMC にアクセスするには、この手順に従ってください。

このタスクについて

HMC を使用せずに eBMC にアクセスするには、以下の手順を実行してください：

手順

1. システムの背面にある「**ETH0**」（ポート 0）と、イーサネットポートを備えた PC とを、イーサネットケーブルで接続してください。
2. まだ行っていない場合は、電源ケーブルを電源ユニットに接続してください。パネルには「**01 N**」と表示されています。
3. 上矢印キーを押して「**02**」を選択し、**Enter** キーを押してください。
4. **N** の横に「<」（小なり記号）が表示されるまで、**Enter** キーを押してください。上矢印キーを押してください。「**N**」が「**M**」に変わります。
5. **Enter** キーを 2 回押します。コントロールパネルに「**02**」と表示されます。
6. 上矢印キーを、30 が表示されるまで押し続け、**Enter** キーを押してください。パネルには **30**** と表示されます。
7. 上矢印キーを押します。パネルには現在、**3000** と表示されています。**Enter** キーを押します。
8. 表示される情報を記録してください。この情報は、後の手順で必要になります。
9. イーサネット対応のデバイスに移動してください。お使いのデバイスのネットワーク設定画面を開き、前の手順で記録した IP アドレスから 1 を引いた値を割り当ててください。たとえば、169.254.176.9 を録音した場合は、ノートパソコンに 169.254.176.8 を割り当ててください。このデバイスでは、サブネットマスク **255.255.0.0** を使用してください。これが eBMC's のデフォルト値となります。
10. お使いのデバイスで、前の手順で使用したアドレスを使用して接続できることを確認し、その IP アドレスに Web ブラウザを接続して、ASMI インターフェースを開いてください。
11. ASMI インターフェースを使用して、新しい管理者パスワードを設定してください。初回ログイン時のユーザー名は「*admin*」、パスワードは「admin」です。
12. 新しいパスワードを設定してください。
13. 以下の手順に従って、ETH0 を静的 IP アドレスとして設定してください：
 - a. eBMC, では、「設定」>「ネットワーク」>「**ETH0**」を選択します。
 - b. 「静的 IPv4 アドレスの追加」を選択します。
 - c. IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット情報を入力してください。
 - d. 「追加 (Add)」をクリックします。
14. システムと PC の現在の接続を解除し、システムをネットワークに再接続してください。eBMC のインターフェースに再度ログインするには、対応している Web ブラウザを開いてください。アドレス・バーに、接続先となる eBMC システムの IP アドレスを入力します。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで **https://<eBMC IP>** という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、割り当てられたユーザー名とパスワードを入力してください。「**ログイン**」をクリックします。

注：デフォルトのユーザー ID は「*admin*」で、パスワードは前の手順で指定したものです。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 1. 使用可能なコンソール・タイプ

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	セットアップ手順
ASMI	AIX®、Linux®、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	システムを管理するために、eBMC にアクセスします (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_accessing_the_ebmc.htm)。
Hardware Management Console (HMC)	AIX、IBM I、Linux、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	サーバーと HMC (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_cable_hmc_standalone.dita) の接続
オペレーション・コンソール	IBM I	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM I 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	サーバーの配線とオペレーションコンソールのアクセス (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_cable_ops_kickoff.htm)。

HMC へのサーバーのケーブル接続

Hardware Management Console (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティ・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

始める前に

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、[インストールと設定作業](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_taskflow.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_taskflow.htm) を参照してください。

POWER11 プロセッサ搭載システムを管理するには、HMC がバージョン 11 リリース 2.0 以降である必要があります。HMC のバージョンとリリース情報を確認するには、以下の手順を実行してください：

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC の **ETH0** を、管理対象システムの **T1** ポートに接続してください。
2. 複数の管理対象システムを管理できるように、HMC をプライベートネットワークに接続する方法については、「[HMC のネットワーク接続](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_netconhmc.htm)」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) を参照してください。

ノート:

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、[HMC ネットワーク接続](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法については、[を参照してください](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_lanmediaspeed_enh.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_lanmediaspeed_enh.htm)。
3. 44 ページの『サーバーのケーブル配線』を続行します。

オペレーションコンソールへのアクセス

オペレーションコンソールを使用して、この IBM I オペレーティングシステムを実行しているサーバーを管理できます。

サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス システムにオペレーティングシステムが *IBM I* プリインストールされていない場合

サーバーのケーブル接続方法と、オペレーションコンソールへのアクセス方法について学び、オペレーティングシステム *IBM I* を使用してシステムを管理しましょう。

始める前に

[IBM i Access Client Solutions](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) を使用して、*IBM I* への LAN 接続を介してオペレーション・コンソールにアクセスできます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. サーバー上の LAN コンソール・アダプターに割り当てられた静的 IP アドレスを取得して、コンソールがその IP アドレスを使用できるようにします。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモします。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注: この IP アドレスは、*IBM I* インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用する IP アドレスとは異なります。この IP アドレスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続されている PC 上でこの IP アドレスに ping し、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認します。応答を受信しない状態である必要があります。

オペレーション・コンソールをセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. ネットワーク接続されたパーソナル・コンピューターに [IBM i Access Client Solutions \(ACS\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) をインストールします。

注: ワークステーションで *IBM I Access Client Solutions (ACS)* を実行するには、Java をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであり、ACS を実行するには Java が必要です。ACS の Java 要件に関する詳細については、[IBM i Access-ACS-Getting-Started](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0>) をご覧ください。

注：ローカル管理者として PC にログオンすることが推奨されます。これにより、PC を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権が確実に付与されます。また、最新バージョンの ACS を実行していることも確認してください。詳細については、[IBM i Access - Client Solutions 5733XJ1](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1>) をご覧ください。

2. PC をサーバーに有線接続してください。Cat 5e または Cat 6（推奨）のイーサネットケーブルを PC と、**T1** ポート（通常は最初のイーサネットアダプタの上部または左端にあるポート）に接続してください。イーサネットポートがどこにあるか分からない場合は、お使いのイーサネットアダプタの位置を確認してください。詳しくは、[こちら](#)を参照してください。

表 2. サーバー・オペレーション・コンソール LAN スロット	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN スロット
9105-41B	C7, C8, C9, C10, C11
9105-22A、9105-22B、9105-42A、9786-22H、 または 9786-42H	C0, C1, C2, C3, C4, C7, C8, C9, C10, C11
9028-21B	C0, C1, C2, C3
9242-21B または 9242-21T	C0, C1, C2, C3

注：サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行って静的 IP アドレスをオペレーション・コンソール・ポートに割り当てた後に、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳細については、[の要件](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm)を参照してください（http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm）。

3. PC ネットワークを構成します。Windows 搭載の PC を使用して PC ネットワークを設定するには、以下の手順を実行してください：

- a. Windows の「コントロールパネル」を開き、アダプター設定にアクセスします。「コントロールパネル」>「ネットワークとインターネット」>「ネットワークと共有センター」>「アダプターの設定の変更」の順に選択します。
- b. 「ローカルエリア接続」のみが有効になっていることを確認してください。他のアダプタが有効になっている場合は、それらを無効にしてください。
- c. 先ほどサーバーに接続したアダプタを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- d. 「Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」を選択します。

注：オペレーション・コンソールのセットアップ後にデバイスをネットワークに戻す場合は、表示されている IP 情報を記録します。

- e. 「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。これにより、PC が 169.254.x.x の範囲の IP アドレスを受け取るようになります。

4. PC のファイアウォールを無効にしてください。

注：初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

5. PC で、対応しているウェブブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで <https://<eBMC IP>> という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、ユーザー名とパスワードを入力してください。

注：デフォルトのユーザー ID は「admin」で、パスワードは eBMC にアクセスした際に設定したものです。

「ログイン」をクリックします。

6. ASMI を使用してサーバーの電源を入れるには、以下の手順を実行してください：

- a. ナビゲーション領域で、**[操作] > [サーバーの電源操作]** を選択します。システムの電源状態が表示されます。
 - b. サーバーのファームウェア起動ポリシーを「**スタンバイ**」に設定し、設定を**保存してください**。
 - c. **[操作]** の下にある **[電源オン]** ボタンをクリックして、現在の設定のままサーバーの電源を入れます。
7. サーバーの設定を行う IBM I には、以下の手順に従ってください：
- a. インストールメディアを挿入してください。
 - b. サーバーの動作モードを「**手動**」に設定してください。
 - c. パーティションのブートモードを IBM I 「**D**」に設定します。
 - d. ロードソースを IBM I ターゲットのロードソーススロットに設定します。
 - e. 代替の再起動デバイスを IBM I、インストールメディアが挿入されているスロットに設定してください。
 - f. コンソールを IBM I、対象のイーサネットアダプタポートに設定します。
 - g. 設定を保存し、「**OS の実行へ進む**」を選択します。
- 注：ロケーションコードを使用することで、物理的な部品の配置場所を特定できます。図解を掲載しており、論理ロケーションコードをサーバーまたは拡張ユニットの物理的な位置に割り当てる際の参考となります。詳細については、を参照してください。 部品の配置と配置コード (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ecs/p11ecs_locations.htm)。
- h. 画面に「**C60041F6**」と表示されたら、次の手順に進んでください。
- 注：この処理が完了するまで、最大 30 分ほどかかる場合があります。コントロールパネルに「**A6005008**」と表示された場合、システムが利用可能なオペレーションコンソールを検出できなかったことを意味します。IBM I これは、システムにがブリーインストールされていないことを示している可能性があり、コンソールタイプを LAN に設定する必要があります。
8. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
- a. IBM I Access Client Solutions (ACS) を開きます。
 - b. 「管理」の下で「**システム構成**」をクリックします。
 - c. 「**コンソールの検索 (Locate Console)**」を選択します。
 - d. 「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続をクリックし、「**コンソール**」をクリックします。
 - e. D モードで IBM の購入済みメディアを使用する場合は、ユーザー ID 「**QSECOFR**」、パスワード「**QSECOFR**」でサインインしてください。
 - f. 「Lang Feature」ウィンドウが開きます。Enter キーを押します。その後、もう一度 Enter キーを押してください。
9. オペレーティングシステムを IBM I インストールしてください。オペレーティングシステムを IBM I インストールするには、以下の手順に従ってください：
- a. NVM デバイスを準備します。NVM デバイスを準備するには、以下の手順を実行してください：
 - i) サインオンします。
 - ii) 「インストール」 Licensed Internal Code 画面で、**専用保守ツール (DST) の処理**を選択します。
 - iii) [専用サービスツール (DST) を使用] ウィンドウで、**[ディスクユニットを操作]**を選択します。
 - iv) [ディスクユニットの操作] ウィンドウで、**[NVMe デバイスの操作]**を選択します。
 - v) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[既存の NVMe ネームスペースを削除]**を選択します。
 - vi) NVMe デバイスを選択します。
 - vii) 名前空間が一覧にない場合は、**F12** キーを押して、手順 x に進んでください。
 - viii) 一覧に表示されている各ネームスペースで、「**4=Delete**」ネームスペースのオプションを選択してください。
 - ix) 「**F10**」を押して、ネームスペースの削除を確認してください。

- x) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[NVMe ネームスペースの作成]** を選択します。
 - xi) NVMe デバイスを選択します。
 - xii) NVMe デバイスに必要な名前空間の数と容量を入力します。
 - xiii) **F10** をクリックして、名前空間の作成を確認してください。
 - xiv) 「**F12**」を押すと、「専用サービスツール (DST) を使用」ウィンドウに戻ります。
 - xv) 「Licensed Internal Code のインストール」メニューで、「**Licensed Internal Code のインストール**」を選択します。
- b. Licensed Internal Code のインストール。Licensed Internal Code をインストールするには、以下の手順に従ってください：
- i) 「Licensed Internal Code のインストール」ウィンドウで、「**Licensed Internal Code のインストール**」と「**システムの初期化**」を選択します。
 - ii) NVMe 装置のディスク装置を選択します。
 - iii) 選択を確認します。NVMe ディスク装置がゼロに設定され、ライセンス内部コードがインストールされ、区画が DST に IPL されます。これにより、セッションが終了します。
 - iv) 「Access Client Solutions (ACS)」の下にある「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続を選択し、次に「**コンソール**」を選択します。
 - v) ユーザー ID「**QSECOFR**」とパスワード「**QSECOFR**」でログインし、パスワードを変更してください。
 - vi) システムが新しいディスク構成を検出した場合、「ディスク構成に関する注意レポート」が表示されます。**F10** キーを押して、この新しい設定を確定してください。
 - vii) ユーザー ID「**QSECOFR**」と、ご自身で設定したパスワードを使用してログインしてください。
- 注：パスワードには大/小文字の区別があります。
- c. ASP にユニットを追加します。ASP にユニットを追加するには、以下の手順に従ってください：
- i) [専用サービスツール (DST) を使用] メニューで、**[ディスクユニットの操作]** を選択します。
 - ii) 「ディスクユニットの操作」ウィンドウで、「**ディスク構成の操作**」を選択します。
 - iii) [ディスク構成の操作] ウィンドウで、**[NVM デバイスの操作]** を選択します。
 - iv) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[NVMe ネームスペースの作成]** を選択します。
 - v) 負荷発生源が含まれている NVMe デバイス以外の NVMe デバイスを選択してください。
 - vi) 指定した名前空間と同じ数と容量を入力してください。
 - vii) **F10** を入力して、名前空間の作成を確認してください。
 - viii) 「**F12**」を押すと、「ディスク単位の操作」ウィンドウに戻ります。
 - ix) [ディスクユニットの操作] ウィンドウで、**[ASP 構成の操作]** を選択します。
 - x) [ASP 構成の操作] ウィンドウで、**[ASP にユニットを追加]** を選択します。
 - xi) 「ASP へのユニットの追加」ウィンドウで、「**既存の ASPs にユニットを追加**」を選択します。
 - xii) ディスクユニットのリストが表示されます。各 NVMe ディスクユニットの「Specify Asp」列に、それぞれ「**1**」と入力してください。
 - xiii) ディスクユニットがシステムの ASP に追加されたことを確認してください。
 - xiv) 「**F12**」をクリックして、「ディスク構成の操作」ウィンドウに戻ります。
- d. ミラー保護の開始。ミラーリング保護を開始するには、以下の手順を実行してください：
- i) [ディスク構成の操作] ウィンドウで、**[ミラー保護の操作]** を選択します。
 - ii) [ミラーリング保護の設定] ウィンドウで、**[ミラーリング保護を開始]** を選択します。
 - iii) **ASP 1** を選択してください。
 - iv) ミラー保護の開始を確認します。このパーティションは、設定およびシステムの IPL を夏時間 (DST) に合わせて更新します。

10. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。
- 前の手順で作成した QSECOFR のユーザー ID とパスワードを使用してログインしてください。
注：パスワードには大/小文字の区別があります。
 - DST のメインメニューで、オプション 3「**専用サービスツールの使用**」を選択してください。
 - 「**オプション 5- DST 環境の処理 (Option 5- Work with DST environment)**」を選択します。
 - 「**オプション 2- システム・デバイス (Option 2- System Devices)**」を選択します。
 - 「**オプション 7- 保守ツール LAN アダプターの構成 (Option 7- Configure service tools LAN adapter)**」を選択します。
 - 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名がネットワーク DNS にも登録されている場合は、そのホスト名を入力できます。ワード Default を入力して、使用する IP アドレスを入力することが推奨されます。
 - F7 を押して情報を保管します。
 - 「F17」を押して**無効**にし、その後「**有効**」を押してください。これにより、セッションが終了します。
11. 静的 IP アドレスを使用して接続を設定するには、以下の手順に従ってください：
- PC とオペレーション・コンソール・ポートの両方をネットワークに移動するか、保守ツール LAN アダプターに対して構成したのと同じサブネットに属するように PC の IP 設定を再構成します。
 - ACS インターフェースに戻り、「システム設定」ウィンドウを選択します。
 - 「**新規**」をクリックします。
 - この接続を使用して他の機能に接続する場合は、「全般」タブに使用するシステム名を入力してください。
 - 「**コンソール**」タブをクリックします。
 - 「LAN コンソール/仮想コンソール (LAN Console/Virtual Console)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
 - 「**OK**」をクリックし、「システム構成」ウィンドウを閉じます。
 - ACS メインメニューで、「**システム**」をクリックし、作成したシステムを選択します。
 - 「コンソール」の下で、「**5250 コンソール (5250 Console)**」をクリックします。ID とパスワードを入力してログインしてください。IPL から続行します。

29 ページの『サーバーのセットアップの完了』を続行します。

システムに *IBMI* 場合、オペレーションコンソールにアクセスする
お使いのシステムに Operations Console がプリインストールされている場合 *IBMI*、そのアクセス方法をご確認ください。

始める前に

IBM i Access Client Solutions (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>)を使用して、*IBMI* への LAN 接続を介してオペレーション・コンソールにアクセスできます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

- サーバーが電源オフになっていることを確認します。
- サーバー上の LAN コンソール・アダプターに割り当てられた静的 IP アドレスを取得して、コンソールがその IP アドレスを使用できるようにします。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモします。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注：この IP アドレスは、*IBMI* インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用する IP アドレスとは異なります。この IP アド

レスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続されている PC 上でこの IP アドレスに ping し、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認します。応答を受信しない状態である必要があります。

このタスクについて

オペレーションコンソールを設定するには、以下の手順を実行してください：

手順

1. ネットワーク接続されたパーソナル・コンピュータに [IBM i Access Client Solutions \(ACS\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) をインストールします。

注：ワークステーションで IBM i Access Client Solutions (ACS) を実行するには、Java をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであり、ACS を実行するには Java が必要です。ACS の Java 要件に関する詳細については、[IBM i Access-ACS-Getting-Started](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0>) をご覧ください。

注：ローカル管理者として PC にログオンすることが推奨されます。これにより、PC を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権が確実に付与されます。また、最新バージョンの ACS を実行していることも確認してください。詳細については、[IBM i Access - Client Solutions 5733XJ1](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1>) をご覧ください。

2. PC をサーバーに有線接続してください。Cat 5e または Cat 6（推奨）のイーサネットケーブルを PC と、**TO** ポート（通常は最初のイーサネットアダプタの上部または右端にあるポート）に接続してください。使用しなければならないサーバー・アダプター・ポートを確認するには、次の表を参照してください。

表 3. サーバー・オペレーション・コンソール LAN スロット	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN スロット
9105-41B	C7, C8, C9, C10, C11
9105-22A, 9105-22B, 9105-42A, 9786-22H, または 9786-42H	C0, C1, C2, C3, C4, C7, C8, C9, C10, C11
9028-21B	C0, C1, C2, C3

注：サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行って静的 IP アドレスをオペレーション・コンソール・ポートに割り当てた後に、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳細については、[の要件](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm) を参照してください（http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm）。

3. PC ネットワークを構成します。Windows 搭載の PC を使用して PC ネットワークを設定するには、以下の手順に従ってください：
 - a. i) Windows の「コントロールパネル」を開き、アダプター設定にアクセスします。「**コントロールパネル**」>「**ネットワークとインターネット**」>「**ネットワークと共有センター**」>「**アダプターの設定の変更**」の順に選択します。
 - ii) 「ローカルエリア接続」のみが有効になっていることを確認してください。他のアダプタが有効になっている場合は、それらを無効にしてください。
 - iii) 先ほどサーバーに接続したアダプタを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
 - iv) 「**Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。

注：オペレーション・コンソールのセットアップ後にデバイスをネットワークに戻す場合は、表示されている IP 情報を記録します。

- v) 「**IP アドレスを自動的に取得**」を選択します。これにより、PC が 169.254.x.x の範囲の IP アドレスを受け取るようになります。

4. PC のファイアウォールを無効にしてください。

注：初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

5. PC で、対応しているウェブブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。たとえば、ウェブブラウザのアドレスバーでこの形式 `https://<eBMC IP>` を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、割り当てられたユーザー名とパスワードを入力してください。注：「**ログイン**」をクリックしてください

注：デフォルトのユーザー ID 「**admin**」 と、eBMC に初めてアクセスした際に設定したパスワードを使用してください。

6. ASMI を使用してサーバーの電源を入れるには、以下の手順を実行してください：

- a. ナビゲーション領域で、**[操作] > [サーバーの電源操作]** を選択します。システムの電源状態が表示されます。
- b. サーバーのファームウェア起動ポリシーを「**スタンバイ**」に設定し、設定を保存します。
- c. **[操作]** の下にある **[電源投入]** ボタンをクリックして、現在の設定のままサーバーの電源を入れてください。

7. コンソール・タイプを LAN に設定します。コンソールの入力を LAN に切り替えるには、以下の手順を実行してください：

- a. エンタープライズ・ベースボード管理コントローラ（eBMC）を使用して、LAN コンソールが使用するイーサネットアダプタポートの位置を設定します。eBMC インターフェースで、**[Server Power Operations] > [Settings] > [IBMi] コンソール** を選択します。
- b. IBMi コンソールを、対象のイーサネットアダプタポートに設定します。
- c. 設定を保存し、「**OS の実行へ進む**」を選択します。
- d. システムに「**C60041F6**」と表示されたら、次の手順に進んでください。

注：この処理が完了するまで、最大 30 分ほどかかる場合があります。コントロールパネルに「**A6005008**」と表示された場合、システムが利用可能なオペレーションコンソールを検出できなかったことを意味します。IBMi これは、システムにがプリインストールされていないことを示している可能性があり、コンソールタイプを LAN に設定する必要があります。

8. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。

- a. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
 - i) IBM I Access Client Solutions (ACS) を開きます。
 - ii) 「管理」の下で「**システム構成**」をクリックします。
 - iii) 「**コンソールの検索 (Locate Console)**」を選択します。
 - iv) 「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続をクリックし、「**コンソール**」をクリックします。
 - v) 「承認待ち」ウィンドウで、ユーザー ID 「**QSECOFR**」とデフォルトのパスワード「**QSECOFR**」を使用してサインインしてください。パスワードを変更してください。
 - vi) セキュリティ証明書を受け入れます。

注：セキュリティ証明書を受け入れない場合、接続は確立されません。

コンソール・ウィンドウが開きます。

注：ウィンドウが最初は空白でも、ウィンドウの左上隅にカーソルが表示されている場合は、画面がメディアから表示する情報の提供を待機している状態です。

9. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

- a. 前の手順で作成した QSECOFR のユーザー ID とパスワードを使用してログインしてください。

注：パスワードには大/小文字の区別があります。

- b. DST メインメニュー **b** で、**オプション 3 「専用サービスツールの使用」** を選択します。
- c. 「**オプション 5- DST 環境の処理 (Option 5- Work with DST environment)**」を選択します。
- d. 「**オプション 2- システム・デバイス (Option 2- System Devices)**」を選択します。

- e. 「オプション 7- 保守ツール LAN アダプターの構成 (Option 7- Configure service tools LAN adapter)」を選択します。
 - f. 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名がネットワーク DNS にも登録されている場合は、そのホスト名を入力できます。ワード Default を入力して、使用する IP アドレスを入力することが推奨されます。
 - g. F7 を押して情報を保管します。
 - h. F17 を押して、セッションを**非活動化**してから、再度 F17 を押して**活動化**します。これにより、セッションが終了します。
10. 固定 IP アドレスを使用して接続を設定するには、以下の手順に従ってください：
- a. PC とオペレーションコンソールのポートの両方をネットワークに接続するか、PC の IP 設定を変更して、サービスツールの LAN アダプタ用に先ほど設定したサブネットと同じサブネットに属するようにしてください。
 - b. ACS インターフェースに戻り、「システム設定」ウィンドウを選択します。
 - c. 「**新規**」をクリックします。
 - d. この接続を使用して他の機能に接続する場合は、「全般」タブに使用するシステム名を入力してください。
 - e. 「**コンソール**」タブをクリックします。
 - f. 「LAN コンソール/仮想コンソール (LAN Console/Virtual Console)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
 - g. 「**OK**」をクリックし、「システム構成」ウィンドウを閉じます。
 - h. ACS メインメニューで、「**システム**」をクリックし、作成したシステムを選択します。
 - i. 「コンソール」の下で、「**5250 コンソール (5250 Console)**」をクリックします。ID とパスワードを入力してログインしてください。IPL から続行します。

ケーブル配線

メンテナンスの際にシステムにアクセスできるよう、ケーブルの結束方法と配線方法を確認してください。

このタスクについて

システムの背面にあるケーブルを適切に結束・配線するには、以下の手順に従ってください：

手順

1. 次の図に示すように、すべてのケーブルをラックの背面からシステムの背面へと配線してください。

注：次の図は、電源ケーブルの配線状況を示しています。システムの背面からラックの背面まで、すべてのケーブルをまとめて配線してください。

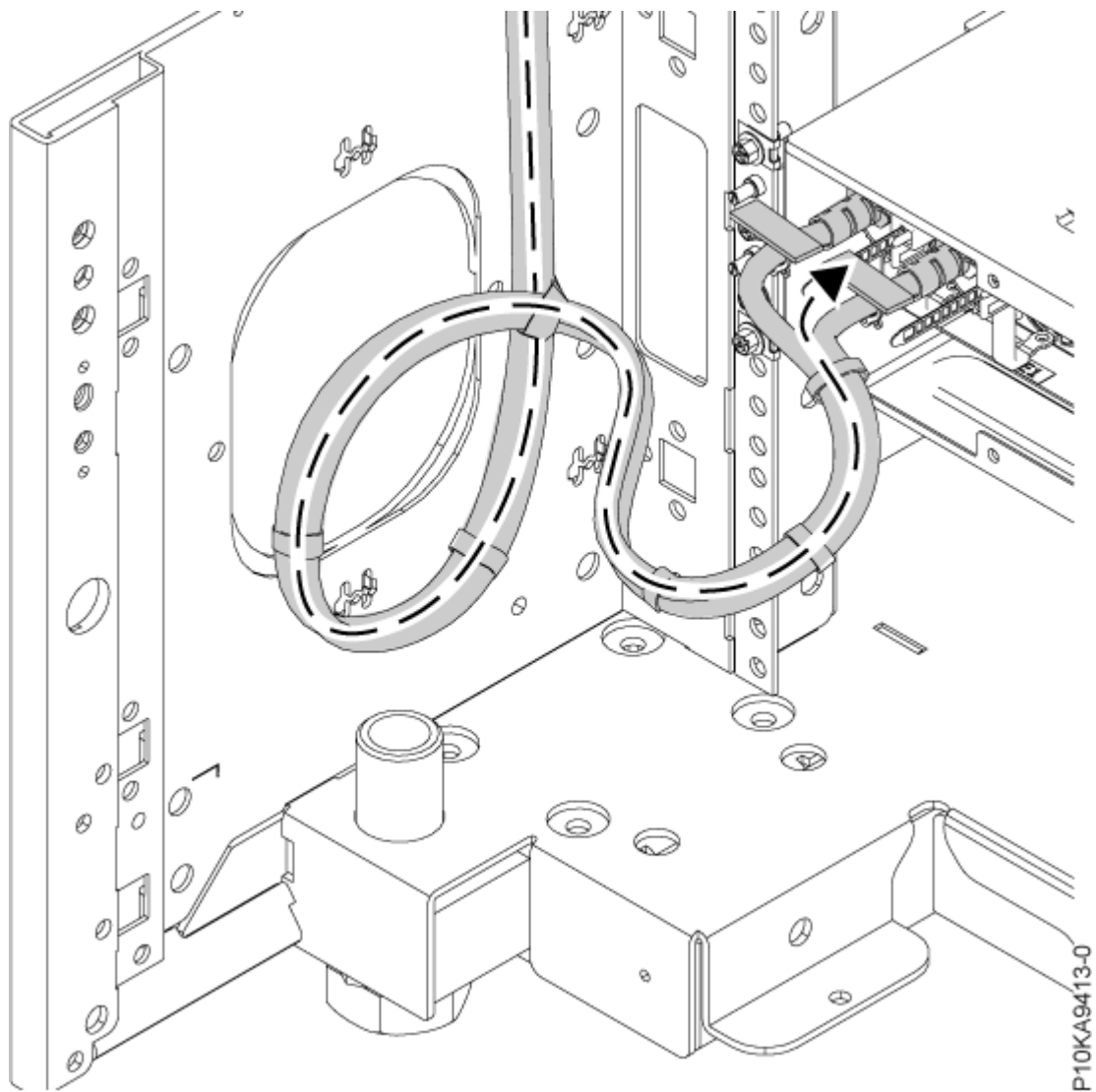
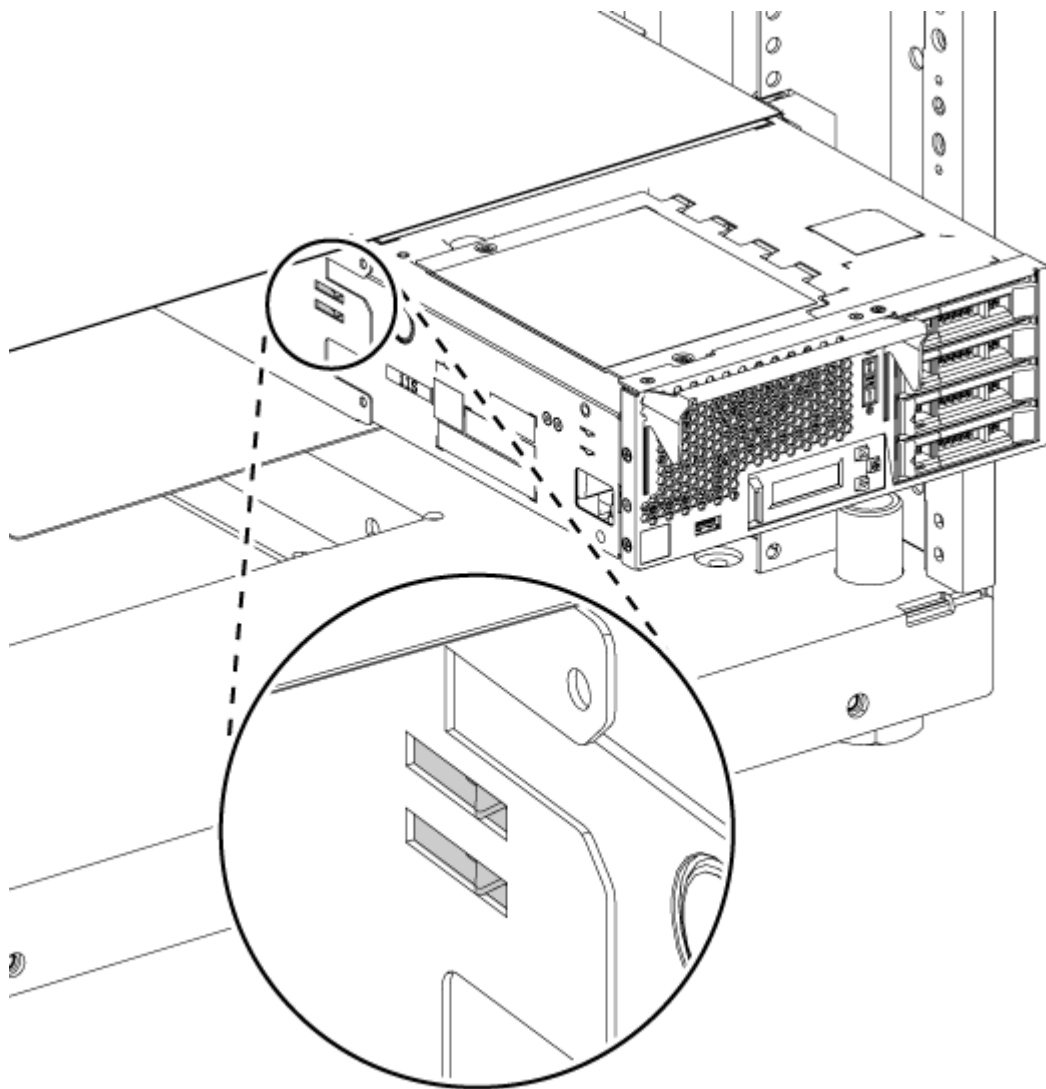


図 14.

2. 最初の面ファスナーを、ケーブル束に、できるだけ筐体に近づけて取り付けてください。
3. ラックの前面で、システムハンドルを持ち上げ、ラックからシステムが完全に引き出されるまで引き出してください。
4. 本体の側面にあるロックがカチッと固定されることを確認してください。



P10KA9417-0

図 15.

5. ラックの後部では、ケーブルがまっすぐになります。システムを整備位置に引き込めるよう、十分な余裕を持たせておいてください。

ケーブルを輪にして、その輪をラックの側面に固定します。

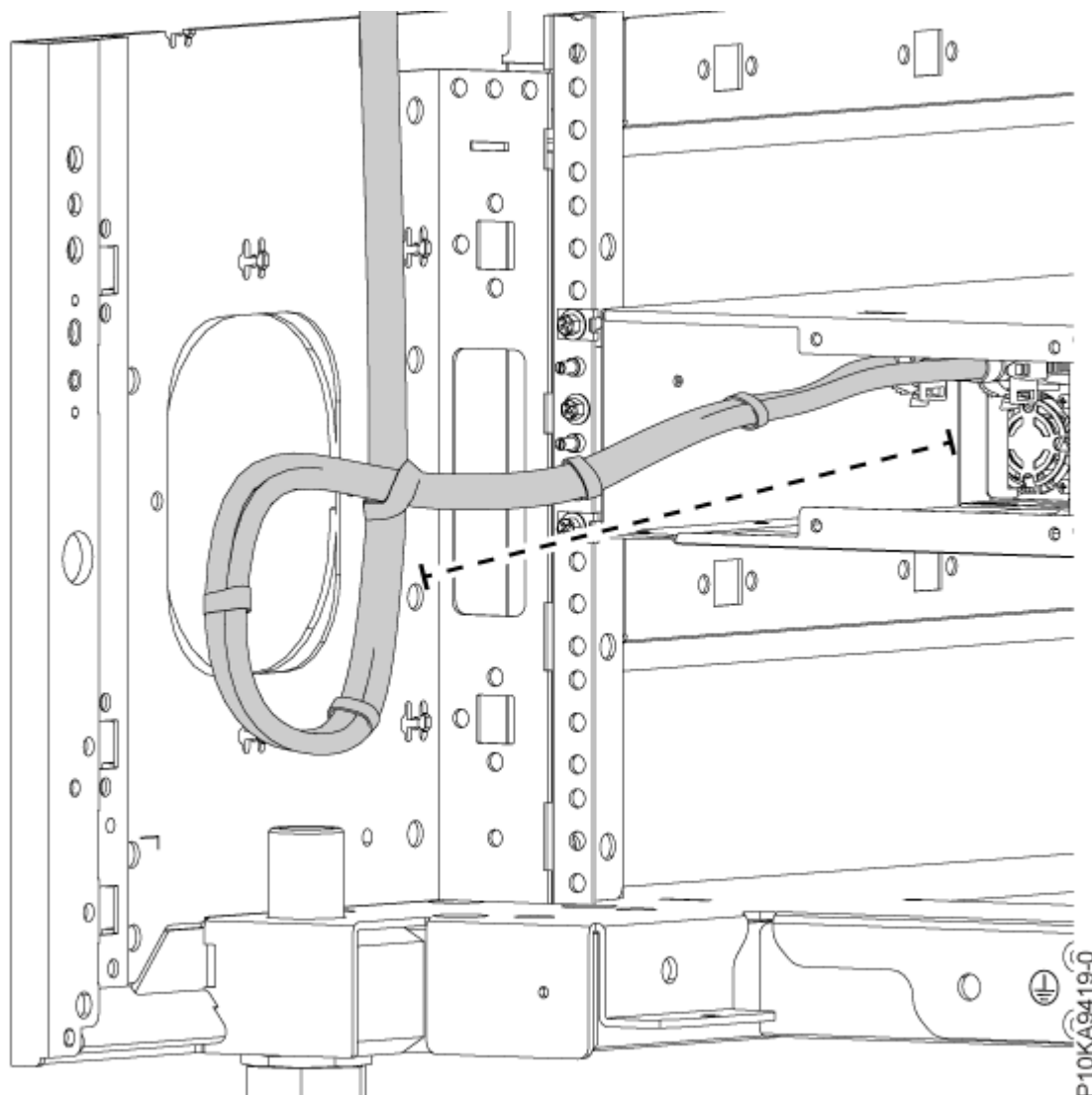


図 16.

6. ラックの背面にあるケーブル束に、残りの面ファスナーを取り付けてください。3 本から 6 本の結束バンドを使用し、間隔を約 30.48 cm (1 フィート) 空けてください 別に。

注: 締結部品が筐体のフランジの裏側に引っかからないようにしてください。

7. ラックの正面で、ハンドルを下げ、システムが奥まで収まるまでラックに押し込んでください。
8. エンクロージャー内に 2 つのシステムがある場合は、ラックの反対側にある 2 つ目のシステムについても、これらの手順を繰り返してください。

サーバーのセットアップの完了

管理対象システムのセットアップのために実行する必要がある作業について説明します。

次のいずれかを選択します。

- [29 ページの『HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了』](#)
- [32 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』](#)

HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了

Hardware Management Console (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下のタスクを実行します。また、仮想化を使用して複数のワークロードを少数のシステムに統合し、サーバーの使用率を高め、コストを削減することもできます。

HMC と DHCP を使用してサーバーの設定を完了する

DHCP ネットワーク構成を使用する HMC を使用して、以下のタスクを実行し、サーバーの設定を完了してください。

このタスクについて

注：この手順を進める前に、各スライドレールからオレンジ色のシステム・レール固定クリップを取り外し、システムをラックに押し込んだことを確認してください。

IBM® Power Systems サーバーは、システム・サービスの管理、モニター、保守、および制御にエンタープライズ・ベース・ボード管理コントローラー (eBMC) を使用します。eBMC は、システム・イベント・ログ・ファイル (SEL) へのアクセスも提供します。eBMC は、センサーを使用してシステムの物理状態をモニターする特殊なサービス・プロセッサです。システム管理者またはサービス担当員は、独立した接続を介して eBMC と通信できます。

重要：Intelligent Platform Management Interface (IPMI) は、ご使用のシステムではデフォルトで無効になっています。IPMI の使用には、固有のセキュリティーの脆弱性が関連付けられています。Redfish API または GUI を使用してシステムを管理することを検討してください。サービスを使用する前に、IPMI を有効にしてユーザーを認可する必要があります。

注：HMC を使用して eBMC でシステムを管理するには、HMC がバージョン 10 リリース 1 サービスパック 1020 以降である必要があります。

HMC を使用して eBMC にアクセスするには、以下の手順を実行します。

手順

1. システム電源ケーブルの一方の端を電源に接続してください。

注：いいえ、現時点では電源を入れないでください。

2. DHCP サーバとして有効になっている HMC のポートを特定し、新しいシステムを管理システムのネットワークに接続します。

注：DHCP を使用して HMC のないスタンドアロン・システムを管理している場合は、**機能 30：サービス・プロセッサ IP アドレスとポート位置を使って IP アドレスを特定できます**。詳細については、[位置](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb5/func30.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb5/func30.htm) を参照してください。

3. 電源ケーブルの一方の端をシステム背面の電源に接続し、もう一方の端を給電部に接続します。
4. HMC がシステムを検出し、デフォルト名を割り当てます。この名前は使用している DHCP IP アドレスから小数部分を除いたものです。サーバーは「**認証待ち**」状態を表示する。
5. HMC がシステムの認証と管理に使用する HMC アクセスパスワードを設定するプロンプトが表示されます。これは、ASMI に **admin** としてアクセスする際に使用するパスワードと同じです。システムパスワードを設定するには、サーバーを選択し、**Actions > Set System Password** を選択します。

注：HMC アクセスパスワードは、eBMC ASMI 管理者パスワードでもあります。

6. 「完了 (Finish)」をクリックします。
7. 「システム・アクション」>「**VMI 構成**」を選択します。ネットワークインターフェースを選択し、[変更]を選択します。

注：T0 または T1 のいずれかを選択できます。以前に T0 に接続したことがある場合は、**Eth0** を設定してください。以前に HMC ネットワーク上の T1 に接続したことがある場合は、**Eth1** を設定してください。

8. 「**DHCP**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
9. HMC を使用してシステムの電源をオンにします。
 - a. ナビゲーション領域で、「リソース」>「**すべてのシステム**」を選択します。
 - b. 内容ペインで、管理対象システムを選択します。
 - c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」>「**操作**」>「**電源オン**」を選択します。
10. 時刻を確認してください。

- a. 「ASMI へようこそ」 ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
 - b. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
 - c. 「**時刻**」を選択します。コンテンツペインには、現在の日付（日、月、年）と時刻（時、分、秒）が表示されるフォームが表示されます。
11. 管理対象システムのファームウェアのバージョンを確認してください。
管理対象システムのファームウェアバージョンを確認するには、**【アクション】>【ファームウェアの更新】>【システムファームウェア】>【現在のバージョンを表示】**を選択します。
 12. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェアを更新してください。「**アクション**」>「**ファームウェアの更新**」>「**システムファームウェア**」>「**更新**」を選択します。

次のタスク

システム構成に関する詳細情報をご覧ください。

(<https://www.ibm.com/downloads/documents/us-en/10a99803d9afd776>) プロセッサベースの Power10 システムの信頼性、可用性、保守性に関する IBM Power 詳細については、以下を参照してください [IBM プロセッサベースのシステムにおける Power10 信頼性、可用性、保守性に関する IBM Power 入門 PowerVM](#)。

「ランタイム・プロセッサ診断テスト・ポリシー」の設定に関する詳細については、「[タイム・プロセッサ診断テスト・ポリシー](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hby/RPD.htm)」を参照してください。 <http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hby/RPD.htm>

静的ネットワーク設定を使用した HMC によるサーバー設定の完了

静的なネットワーク構成を使用する HMC を使用して、以下のタスクを実行し、サーバーの設定を完了してください。

始める前に

この手順を完了するには、接続および認証プロセスを完了するために 2 つの固定 IP アドレスが必要です。1 つは **HMC1** ポート用、もう 1 つは VMI 用です。PC からログインして固定 IP アドレスや管理者パスワードを設定する場合、そのパスワードは「**システムを接続...**」を選択する際に使用するパスワードとなります。これは、クライアントが固定 IP アドレスを使用しているためです。

手順

1. システムの背面にある **T2/T3** ポートと、イーサネットポートを備えた PC とを、イーサネットケーブルで接続してください。
2. まだ行っていない場合は、電源ケーブルを電源ユニットに接続してください。パネルには「01 N」と表示されています。
3. 上矢印キーを押して「02」を選択し、Enter キーを押してください。
4. Enter キーをもう一度押します。N の横に「<」（小さいなり記号）が表示されています。上矢印キーを押します。「N」が「M」に変わります。
5. Enter キーを 2 回押します。コントロールパネルに「02」と表示されます。
6. 上矢印キーを、30 が表示されるまで押し続け、Enter キーを押してください。パネルには 30**が表示されます。
7. 上矢印キーを押します。パネルには現在、3000 と表示されています。Enter キーを押します。
8. 表示される情報を記録してください。この情報は、後の手順で必要になります。
9. イーサネット対応のデバイスに移動してください。お使いのデバイスのネットワーク設定画面を開き、前の手順で記録した IP アドレスから 1 を引いたアドレスを割り当ててください。たとえば、169.254.176.9 を録音した場合は、ノートパソコンに 169.254.176.8 を割り当ててください。このデバイスでは、サブネットマスク 255.255.0.0 を使用してください。これが eBMC's のデフォルト値となります。
10. お使いのデバイスで、前の手順で使ったアドレスを使用して接続できることを確認し、その IP アドレスに Web ブラウザを接続して ASMI を開いてください。

11. ASMI インターフェースを使用して、新しい管理者パスワードを設定してください。初回ログイン時のユーザー名は「admin」、パスワードは「admin」です。
12. 新しいパスワードを設定してください。次の手順に進む前に、有効なパスワードを入力してください。
13. **ETHx** を静的 IP として設定します。 **ETHx** を固定 IP として設定するには、以下の手順に従ってください：

注： **T0** または **T1** のいずれかを選択できます。以前に **T0** に接続したことがある場合は、 **ETH0** を設定してください。以前に HMC ネットワーク上の **T1** に接続したことがある場合は、 **ETH1** を設定してください。eBMC インターフェース上で、 **ETH0** または **ETH1** 用に 1 つの利用可能な IP アドレスが必要です。

- a. eBMC のインターフェースで、「設定」 > 「ネットワーク」 > 「**ETHx**」を選択します。
 - b. 「静的 IPv4 アドレスの追加」を選択します。
 - c. IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット情報を入力してください。
 - d. 「追加 (Add)」をクリックします。
14. eBMC に接続されているイーサネットケーブルを取り外し、管理対象システムをネットワークに接続してください。eBMC インターフェースに再度ログインするには、対応している Web ブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで `https://<eBMC IP>` という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、ユーザー名とパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。

注：デフォルトのユーザー ID は「admin」で、パスワードは以前設定したものです。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

Hardware Management Console (HMC) がない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

このタスクについて

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、以下の手順を完了します。

手順

1. システムに付属している配送用ねじを使用して、サーバーをラックに取り付けます。
2. 管理対象システムのファームウェア・レベルおよび時刻を確認するには、以下の手順を実行します。
 - a. 詳細システム管理インターフェース (ASMI) にアクセスします。手順については、 (www.ibm.com/docs/POWER11/p11hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」 ペインで、著作権文の下右上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 日付と時刻を更新する。

日付と時刻を自動的に設定するには、 **NTP** を選択します。NTP サーバーのアドレスを入力します。「設定の保管」をクリックします。

手動で日付と時刻を設定するには、「手動」を選択します。日付と時刻を入力します。「設定の保管」をクリックします。
3. システムを始動するには、以下の手順を実行してください。
 - a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。

パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。
 - a. 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
 - b. システムの始動中に、進行インジケーターがコントロール・パネルに表示されます。
 - c. コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示します。

手順については、HMC で管理されていないシステムの起動 (www.ibm.com/docs/POWER11/p11haj/startsysnohmc.htm) を参照してください。

4. オペレーティング・システムをインストールして更新します。

- AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール AIX](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) を参照してください。
- Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール Linux](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) を参照してください。
- VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[VIOS のインストール](https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) (https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) を参照してください。
- IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[IBM i オペレーティング・システムのインストール](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) を参照してください。

5. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

スタンドアロン・サーバーの設置

ここでは、スタンドアロン・サーバーのセットアップについて説明します。

スタンドアロン・サーバーの設置の前提条件

この情報を参考にして、スタンドアロンサーバーの設定に必要な前提条件を確認してください。

このタスクについて

サーバーの設置を始める前に、以下の資料を読むことが必要な場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで保守されています。「[IBM Power システムのインストール](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_roadmap.htm)」を参照してください。S1012 (9028-21B) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_roadmap.htm)。
- サーバーの導入を計画するには、[計画](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ia4/p11ia4_kickoff.htm) を参照してください (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ia4/p11ia4_kickoff.htm)。
- HMC のアップデートおよび修正プログラムをダウンロードするには、[Hardware Management Console のサポートおよびダウンロードサイト](https://www.ibm.com/support/pages/hardware-management-console-support-and-downloads) (<https://www.ibm.com/support/pages/hardware-management-console-support-and-downloads>) をご覧ください。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

手順

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。
 - プラス・ドライバ
 - マイナス・ドライバ
2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。
 - HMC バージョン 11 リリース 2.0 以降。
 - グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
 - テレタイプ (tty) モニターとキーボード

スタンドアロン型サーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

このタスクについて

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

設置場所へのサーバーの移動

スタンドアロン・サーバーを設置場所に移動する方法について説明します。

このタスクについて

スタンドアロン・サーバーを開梱した後、サーバーを設置場所に移動してください。

サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 4. 使用可能なコンソール・タイプ				
コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	セットアップ手順
ASMI	AIX、Linux、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	システムを管理するために、eBMC にアクセスします (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_accessing_the_ebmc.htm)。

表 4. 使用可能なコンソール・タイプ (続き)

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	セットアップ手順
Hardware Management Console (HMC)	AIX、IBM I、Linux、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	サーバーと HMC (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_cable_hmc_standalone.dita) の接続
オペレーション・コンソール	IBM I	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM I 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	サーバーの配線とオペレーションコンソールのアクセス (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_cable_ops_kickoff.htm)。

システムを管理できるようにするための eBMC へのアクセス

IBM® Power Systems サーバーは、システム・サービスの管理、モニター、保守、および制御にエンタープライズ・ベース・ボード管理コントローラー (eBMC) を使用します。eBMC は、システム・イベント・ログ・ファイル (SEL) へのアクセスも提供します。eBMC は、センサーを使用してシステムの物理状態をモニターする特殊なサービス・プロセッサです。システム管理者またはサービス担当員は、独立した接続を介して eBMC と通信できます。

HMC を使用して eBMC にアクセスする

HMC を使用して eBMC にアクセスする方法について学びましょう。

このタスクについて

HMC を使用して eBMC にアクセスするには、この手順に従ってください。

注: HMC を使用して eBMC でシステムを管理するには、HMC がバージョン 10 リリース 3.0 以降である必要があります。

手順

1. HMC 上で DHCP サーバーとして有効になっているポートを特定し、新しいシステムを管理対象システムのネットワークに接続してください。
2. 電源ケーブルの一方の端をシステム背面の電源に接続し、もう一方の端を給電部に接続します。
3. HMC がシステムを検出し、デフォルト名を割り当てます。この名前は使用している DHCP IP アドレスから小数部分を除いたものです。eBMC には「**認証待ち**」の状態が表示されます。
4. HMC がシステムの認証および管理に使用する ID とパスワードの設定を求められます (デフォルトのパスワードは有効期限が切れています)。これは、ASMI へのアクセスに使用する ID とパスワードと同じです。システムパスワードを設定するには、eBMC, を選択し、**[Actions] > [Update System Password]** を選択します。
5. 「完了 (Finish)」をクリックします。

6. 「システム・アクション」 > 「VMI 構成」を選択します。ネットワークインターフェースを選択し、[変更]を選択します。

注: 「T1」を選択してください。

7. 「DHCP」を選択し、「OK」をクリックします。
8. HMC を使用してシステムの電源をオンにします。システムの電源を入れるには、以下の手順に従ってください:
 - a. ナビゲーション領域で、「リソース」 > 「すべてのシステム」を選択します。
 - b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
 - c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」 > 「操作」 > 「電源オン」を選択します。

HMC を使用せずに eBMC にアクセスする

HMC を使用せずに eBMC にアクセスするには、この手順に従ってください。

このタスクについて

HMC を使用せずに eBMC にアクセスするには、以下の手順を実行してください：

手順

1. システムの背面にある「ETH0」（ポート 0）と、イーサネットポートを備えた PC とを、イーサネットケーブルで接続してください。
2. まだ行っていない場合は、電源ケーブルを電源ユニットに接続してください。パネルには「01 N」と表示されています。
3. 上矢印キーを押して「02」を選択し、Enter キーを押してください。
4. N の横に「<」（小なり記号）が表示されるまで、Enter キーを押してください。上矢印キーを押してください。「N」が「M」に変わります。
5. Enter キーを 2 回押します。コントロールパネルに「02」と表示されます。
6. 上矢印キーを、30 が表示されるまで押し続け、Enter キーを押してください。パネルには 30** と表示されます。
7. 上矢印キーを押します。パネルには現在、3000 と表示されています。Enter キーを押します。
8. 表示される情報を記録してください。この情報は、後の手順で必要になります。
9. イーサネット対応のデバイスに移動してください。お使いのデバイスのネットワーク設定画面を開き、前の手順で記録した IP アドレスから 1 を引いた値を割り当ててください。たとえば、169.254.176.9 を録音した場合は、ノートパソコンに 169.254.176.8 を割り当ててください。このデバイスでは、サブネットマスク 255.255.0.0 を使用してください。これが eBMC's のデフォルト値となります。
10. お使いのデバイスで、前の手順で使用したアドレスを使用して接続できることを確認し、その IP アドレスに Web ブラウザを接続して、ASMI インターフェースを開いてください。
11. ASMI インターフェースを使用して、新しい管理者パスワードを設定してください。初回ログイン時のユーザー名は「admin」、パスワードは「admin」です。
12. 新しいパスワードを設定してください。
13. 以下の手順に従って、ETH0 を静的 IP アドレスとして設定してください：
 - a. eBMC, では、「設定」 > 「ネットワーク」 > 「ETH0」を選択します。
 - b. 「静的 IPv4 アドレスの追加」を選択します。
 - c. IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット情報を入力してください。
 - d. 「追加 (Add)」をクリックします。
14. システムと PC の現在の接続を解除し、システムをネットワークに再接続してください。eBMC のインターフェースに再度ログインするには、対応している Web ブラウザを開いてください。アドレス・バーに、接続先となる eBMC システムの IP アドレスを入力します。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで <https://<eBMC IP>> という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、割り当てられたユーザー名とパスワードを入力してください。「ログイン」をクリックします。

注: デフォルトのユーザー ID は「*admin*」で、パスワードは前の手順で指定したものです。

HMC へのサーバーのケーブル接続

Hardware Management Console (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティー・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

始める前に

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、[インストールと設定作業](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_taskflow.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_taskflow.htm) を参照してください。

POWER11 プロセッサ搭載システムを管理するには、HMC がバージョン 11 リリース 2.0 以降である必要があります。HMC のバージョンとリリース情報を確認するには、以下の手順を実行してください：

1. ナビゲーション領域で「**更新**」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC の **ETH0** を、管理対象システムの **T1** ポートに接続してください。
2. 複数の管理対象システムを管理できるように、HMC をプライベートネットワークに接続する方法については、「[HMC のネットワーク接続](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_netconhmc.htm)」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) を参照してください。

ノート：

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、[HMC ネットワーク接続](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法については、[を参照してください](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_lanmediaspeed_enh.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_lanmediaspeed_enh.htm)。
3. [44 ページの『サーバーのケーブル配線』](#) を続行します。

オペレーションコンソールへのアクセス

オペレーションコンソールを使用して、この IBM i オペレーティングシステムを実行しているサーバーを管理できます。

サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス システムにオペレーティングシステムが *IBM i* プリインストールされていない場合

サーバーのケーブル接続方法と、オペレーションコンソールへのアクセス方法について学び、オペレーティングシステム *IBM i* を使用してシステムを管理しましょう。

始める前に

[IBM i Access Client Solutions](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) を使用して、*IBM i* への LAN 接続を介してオペレーション・コンソールにアクセスできます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. サーバー上の LAN コンソール・アダプターに割り当てられた静的 IP アドレスを取得して、コンソールがその IP アドレスを使用できるようにします。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモします。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注: この IP アドレスは、IBM i インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用する IP アドレスとは異なります。この IP アドレスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続されている PC 上でこの IP アドレスに ping し、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認します。応答を受信しない状態である必要があります。

オペレーション・コンソールをセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. ネットワーク接続されたパーソナル・コンピュータに [IBM i Access Client Solutions \(ACS\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) をインストールします。

注: ワークステーションで IBM i Access Client Solutions (ACS) を実行するには、Java をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであり、ACS を実行するには Java が必要です。ACS の Java 要件に関する詳細については、[IBM i Access-ACS-Getting-Started](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0>) をご覧ください。

注: ローカル管理者として PC にログオンすることが推奨されます。これにより、PC を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権が確実に付与されます。また、最新バージョンの ACS を実行していることも確認してください。詳細については、[IBM i Access - Client Solutions 5733XJ1](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1>) をご覧ください。

2. PC をサーバーに有線接続してください。Cat 5e または Cat 6 (推奨) のイーサネットケーブルを PC と、**T1** ポート (通常は最初のイーサネットアダプタの上部または左端にあるポート) に接続してください。イーサネットポートがどこにあるか分からない場合は、お使いのイーサネットアダプタの位置を確認してください。詳しくは、を参照してください。

表 5. サーバー・オペレーション・コンソール LAN スロット	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN スロット
9105-41B	C7, C8, C9, C10, C11
9105-22A、9105-22B、9105-42A、9786-22H、 または 9786-42H	C0, C1, C2, C3, C4, C7, C8, C9, C10, C11
9028-21B	C0, C1, C2, C3
9242-21B または 9242-21T	C0, C1, C2, C3

注: サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行って静的 IP アドレスをオペレーション・コンソール・ポートに割り当てた後に、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳細については、[の要件](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p111hbx/hardwarereq_adapter.htm) を参照してください (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p111hbx/hardwarereq_adapter.htm)。

3. PC ネットワークを構成します。Windows 搭載の PC を使用して PC ネットワークを設定するには、以下の手順を実行してください：
 - a. Windows の「コントロールパネル」を開き、アダプター設定にアクセスします。「コントロールパネル」>「ネットワークとインターネット」>「ネットワークと共有センター」>「アダプターの設定の変更」の順に選択します。
 - b. 「ローカルエリア接続」のみが有効になっていることを確認してください。他のアダプタが有効になっている場合は、それらを無効にしてください。

- c. 先ほどサーバーに接続したアダプタを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
- d. 「**Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。
- 注: オペレーション・コンソールのセットアップ後にデバイスをネットワークに戻す場合は、表示されている IP 情報を記録します。
- e. 「**IP アドレスを自動的に取得**」を選択します。これにより、PC が 169.254.x.x の範囲の IP アドレスを受け取るようになります。
4. PC のファイアウォールを無効にしてください。
- 注: 初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。
5. PC で、対応しているウェブブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで **https://<eBMC IP>** という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、ユーザー名とパスワードを入力してください。
- 注: デフォルトのユーザー ID は「**admin**」で、パスワードは eBMC にアクセスした際に設定したものです。
- 「**ログイン**」をクリックします。
6. ASMI を使用してサーバーの電源を入れるには、以下の手順を実行してください：
- a. ナビゲーション領域で、**[操作] > [サーバーの電源操作]** を選択します。システムの電源状態が表示されます。
- b. サーバーのファームウェア起動ポリシーを「**スタンバイ**」に設定し、設定を**保存**してください。
- c. **[操作]** の下にある **[電源オン]** ボタンをクリックして、現在の設定のままサーバーの電源を入れます。
7. サーバーの設定を行う IBM I には、以下の手順に従ってください：
- a. インストールメディアを挿入してください。
- b. サーバーの動作モードを「**手動**」に設定してください。
- c. パーティションのブートモードを IBM I 「**D**」に設定します。
- d. ロードソースを IBM I ターゲットのロードソーススロットに設定します。
- e. 代替の再起動デバイスを IBM I、インストールメディアが挿入されているスロットに設定してください。
- f. コンソールを IBM I、対象のイーサネットアダプタポートに設定します。
- g. 設定を保存し、「**OS の実行へ進む**」を選択します。
- 注: ロケーションコードを使用することで、物理的な部品の配置場所を特定できます。図解を掲載しており、論理ロケーションコードをサーバーまたは拡張ユニットの物理的な位置に割り当てる際の参考となります。詳細については、を参照してください。[部品の配置と配置コード](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ecs/p11ecs_locations.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ecs/p11ecs_locations.htm)。
- h. 画面に「**C60041F6**」と表示されたら、次の手順に進んでください。
- 注: この処理が完了するまで、最大 30 分ほどかかる場合があります。コントロールパネルに「**A6005008**」と表示された場合、システムが利用可能なオペレーションコンソールを検出できなかったことを意味します。IBM I これは、システムにがプリインストールされていないことを示している可能性があり、コンソールタイプを LAN に設定する必要があります。
8. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
- a. IBM I Access Client Solutions (ACS) を開きます。
- b. 「管理」の下で「**システム構成**」をクリックします。
- c. 「**コンソールの検索 (Locate Console)**」を選択します。
- d. 「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続をクリックし、「**コンソール**」をクリックします。

- e. D モードで IBM の購入済みメディアを使用する場合は、ユーザー ID 「QSECOFR」、パスワード「QSECOFR」でサインインしてください。
 - f. 「Lang Feature」ウィンドウが開きます。Enter キーを押します。その後、もう一度 Enter キーを押してください。
9. オペレーティングシステムを IBM I インストールしてください。オペレーティングシステムを IBM I インストールするには、以下の手順に従ってください：
- a. NVM デバイスを準備します。NVM デバイスを準備するには、以下の手順を実行してください：
 - i) サインオンします。
 - ii) 「インストール」 Licensed Internal Code 画面で、**専用保守ツール (DST) の処理**を選択します。
 - iii) [専用サービスツール (DST) を使用] ウィンドウで、**[ディスクユニットの操作]**を選択します。
 - iv) [ディスクユニットの操作] ウィンドウで、**[NVMe デバイスの操作]**を選択します。
 - v) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[既存の NVMe ネームスペースを削除]**を選択します。
 - vi) NVMe デバイスを選択します。
 - vii) 名前空間が一覧にない場合は、**F12** キーを押して、手順 x に進んでください。
 - viii) 一覧に表示されている各ネームスペースで、「**4=Delete**」ネームスペースのオプションを選択してください。
 - ix) 「**F10**」を押して、ネームスペースの削除を確認してください。
 - x) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[NVMe ネームスペースの作成]**を選択します。
 - xi) NVMe デバイスを選択します。
 - xii) NVMe デバイスに必要な名前空間の数と容量を入力します。
 - xiii) **F10** をクリックして、名前空間の作成を確認してください。
 - xiv) 「**F12**」を押すと、「専用サービスツール (DST) を使用」ウィンドウに戻ります。
 - xv) 「Licensed Internal Code のインストール」メニューで、「**Licensed Internal Code のインストール**」を選択します。
 - b. Licensed Internal Code のインストール。Licensed Internal Code をインストールするには、以下の手順に従ってください：
 - i) 「Licensed Internal Code のインストール」ウィンドウで、「**Licensed Internal Code のインストール**」と「**システムの初期化**」を選択します。
 - ii) NVMe 装置のディスク装置を選択します。
 - iii) 選択を確認します。NVMe ディスク装置がゼロに設定され、ライセンス内部コードがインストールされ、区画が DST に IPL されます。これにより、セッションが終了します。
 - iv) 「Access Client Solutions (ACS)」の下にある「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続を選択し、次に「**コンソール**」を選択します。
 - v) ユーザー ID 「QSECOFR」とパスワード「QSECOFR」でログインし、パスワードを変更してください。
 - vi) システムが新しいディスク構成を検出した場合、「ディスク構成に関する注意レポート」が表示されます。**F10** キーを押して、この新しい設定を確定してください。
 - vii) ユーザー ID 「QSECOFR」と、ご自身で設定したパスワードを使用してログインしてください。

注：パスワードには大/小文字の区別があります。
 - c. ASP にユニットを追加します。ASP にユニットを追加するには、以下の手順に従ってください：
 - i) [専用サービスツール (DST) を使用] メニューで、**[ディスクユニットの操作]**を選択します。
 - ii) 「ディスクユニットの操作」ウィンドウで、「**ディスク構成の操作**」を選択します。
 - iii) [ディスク構成の操作] ウィンドウで、**[NVM デバイスの操作]**を選択します。
 - iv) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[NVM ネームスペースの作成]**を選択します。
 - v) 負荷発生源が含まれている NVMe デバイス以外の NVMe デバイスを選択してください。

- vi) 指定した名前空間と同じ数と容量を入力してください。
- vii) **F10** を入力して、名前空間の作成を確認してください。
- viii) 「**F12**」を押すと、「ディスク単位の操作」ウィンドウに戻ります。
- ix) [ディスクユニットの操作] ウィンドウで、**[ASP 構成の操作]** を選択します。
- x) [ASP 構成の操作] ウィンドウで、**[ASP にユニットを追加]** を選択します。
- xi) 「ASP へのユニットの追加」ウィンドウで、「**既存の ASP にユニットを追加**」を選択します。
- xii) ディスクユニットのリストが表示されます。各 NVMe ディスクユニットの「Specify Asp」列に、それぞれ「**1**」と入力してください。
- xiii) ディスクユニットがシステムの ASP に追加されたことを確認してください。
- xiv) 「**F12**」をクリックして、「ディスク構成の操作」ウィンドウに戻ります。
- d. ミラー保護の開始。ミラーリング保護を開始するには、以下の手順を実行してください：
 - i) [ディスク構成の操作] ウィンドウで、**[ミラー保護の操作]** を選択します。
 - ii) [ミラーリング保護の設定] ウィンドウで、**[ミラーリング保護を開始]** を選択します。
 - iii) **ASP 1** を選択してください。
 - iv) ミラー保護の開始を確認します。このパーティションは、設定およびシステムの IPL を夏時間 (DST) に合わせて更新します。
- 10. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。
 - a. 前の手順で作成した QSECOFR のユーザー ID とパスワードを使用してログインしてください。
注：パスワードには大/小文字の区別があります。
 - b. DST のメインメニューで、オプション 3「**専用サービスツールの使用**」を選択してください。
 - c. 「**オプション 5- DST 環境の処理 (Option 5- Work with DST environment)**」を選択します。
 - d. 「**オプション 2- システム・デバイス (Option 2- System Devices)**」を選択します。
 - e. 「**オプション 7- 保守ツール LAN アダプターの構成 (Option 7- Configure service tools LAN adapter)**」を選択します。
 - f. 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名がネットワーク DNS にも登録されている場合は、そのホスト名を入力できます。ワード Default を入力して、使用する IP アドレスを入力することが推奨されます。
 - g. F7 を押して情報を保管します。
 - h. 「F17」を押して**無効**にし、その後「**有効**」を押してください。これにより、セッションが終了します。
- 11. 静的 IP アドレスを使用して接続を設定するには、以下の手順に従ってください：
 - a. PC とオペレーション・コンソール・ポートの両方をネットワークに移動するか、保守ツール LAN アダプターに対して構成したのと同じサブネットに属するように PC の IP 設定を再構成します。
 - b. ACS インターフェースに戻り、「システム設定」ウィンドウを選択します。
 - c. 「**新規**」をクリックします。
 - d. この接続を使用して他の機能に接続する場合は、「全般」タブに使用するシステム名を入力してください。
 - e. 「**コンソール**」タブをクリックします。
 - f. 「LAN コンソール/仮想コンソール (LAN Console/Virtual Console)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
 - g. 「**OK**」をクリックし、「システム構成」ウィンドウを閉じます。
 - h. ACS メインメニューで、「**システム**」をクリックし、作成したシステムを選択します。
 - i. 「コンソール」の下で、「**5250 コンソール (5250 Console)**」をクリックします。ID とパスワードを入力してログインしてください。IPL から続行します。

29 ページの『サーバーのセットアップの完了』を続行します。

システムに *IBM I* 場合、オペレーションコンソールにアクセスする
お使いのシステムに Operations Console がプリインストールされている場合 *IBM I*、そのアクセス方法をご確認ください。

始める前に

[IBM i Access Client Solutions \(http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) を使用して、*IBM I* への LAN 接続を介してオペレーション・コンソールにアクセスできます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. サーバー上の LAN コンソール・アダプターに割り当てられた静的 IP アドレスを取得して、コンソールがその IP アドレスを使用できるようにします。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモします。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注: この IP アドレスは、*IBM I* インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用する IP アドレスとは異なります。この IP アドレスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続されている PC 上でこの IP アドレスに ping し、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認します。応答を受信しない状態である必要があります。

このタスクについて

オペレーションコンソールを設定するには、以下の手順を実行してください：

手順

1. ネットワーク接続されたパーソナル・コンピュータに [IBM i Access Client Solutions \(ACS\) \(http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) をインストールします。

注: ワークステーションで *IBM I* Access Client Solutions (ACS) を実行するには、Java をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであり、ACS を実行するには Java が必要です。ACS の Java 要件に関する詳細については、[IBM i Access-ACS-Getting-Started \(https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0\)](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0) をご覧ください。

注: ローカル管理者として PC にログオンすることが推奨されます。これにより、PC を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権が確実に付与されます。また、最新バージョンの ACS を実行していることも確認してください。詳細については、[IBM i Access - Client Solutions 5733XJ1 \(https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1\)](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1) をご覧ください。

2. PC をサーバーに有線接続してください。Cat 5e または Cat 6（推奨）のイーサネットケーブルを PC と、**TO** ポート（通常は最初のイーサネットアダプタの上部または右端にあるポート）に接続してください。使用しなければならないサーバー・アダプター・ポートを確認するには、次の表を参照してください。

表 6. サーバー・オペレーション・コンソール LAN スロット	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN スロット
9105-41B	C7, C8, C9, C10, C11
9105-22A, 9105-22B, 9105-42A, 9786-22H, または 9786-42H	C0, C1, C2, C3, C4, C7, C8, C9, C10, C11
9028-21B	C0, C1, C2, C3

注：サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行って静的 IP アドレスをオペレーション・コンソール・ポートに割り当てた後に、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳細については、[の要件](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm)を参照してください（http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm）。

3. PC ネットワークを構成します。Windows 搭載の PC を使用して PC ネットワークを設定するには、以下の手順に従ってください：

- a. i) Windows の「コントロールパネル」を開き、アダプター設定にアクセスします。「**コントロールパネル**」>「**ネットワークとインターネット**」>「**ネットワークと共有センター**」>「**アダプターの設定の変更**」の順に選択します。
- ii) 「ローカルエリア接続」のみが有効になっていることを確認してください。他のアダプタが有効になっている場合は、それらを無効にしてください。
- iii) 先ほどサーバーに接続したアダプタを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
- iv) 「**Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。

注：オペレーション・コンソールのセットアップ後にデバイスをネットワークに戻す場合は、表示されている IP 情報を記録します。

- v) 「**IP アドレスを自動的に取得**」を選択します。これにより、PC が 169.254.x.x の範囲の IP アドレスを受け取るようになります。

4. PC のファイアウォールを無効にしてください。

注：初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

5. PC で、対応しているウェブブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。たとえば、ウェブブラウザのアドレスバーでこの形式 <https://<eBMC IP>> を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、割り当てられたユーザー名とパスワードを入力してください。注：「**ログイン**」をクリックしてください

注：デフォルトのユーザー ID 「**admin**」と、eBMC に初めてアクセスした際に設定したパスワードを使用してください。

6. ASMI を使用してサーバーの電源を入れるには、以下の手順を実行してください：

- a. ナビゲーション領域で、**[操作]** > **[サーバーの電源操作]** を選択します。システムの電源状態が表示されます。
- b. サーバーのファームウェア起動ポリシーを「**スタンバイ**」に設定し、設定を保存します。
- c. **[操作]** の下にある **[電源投入]** ボタンをクリックして、現在の設定のままサーバーの電源を入れてください。

7. コンソール・タイプを LAN に設定します。コンソールの入力を LAN に切り替えるには、以下の手順を実行してください：

- a. エンタープライズ・ベースボード管理コントローラ（eBMC）を使用して、LAN コンソールが使用するイーサネットアダプタポートの位置を設定します。eBMC インターフェースで、**[Server Power Operations]** > **[Settings]** > **[IBMi]** コンソールを選択します。
- b. IBMi コンソールを、対象のイーサネットアダプタポートに設定します。
- c. 設定を保存し、「**OS の実行へ進む**」を選択します。
- d. システムに「**C60041F6**」と表示されたら、次の手順に進んでください。

注：この処理が完了するまで、最大 30 分ほどかかる場合があります。コントロールパネルに「**A6005008**」と表示された場合、システムが利用可能なオペレーションコンソールを検出できなかったことを意味します。IBMi これは、システムに がプリインストールされていないことを示している可能性があり、コンソールタイプを LAN に設定する必要があります。

8. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。

- a. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
 - i) IBM I Access Client Solutions (ACS) を開きます。
 - ii) 「管理」の下で「**システム構成**」をクリックします。

- iii) 「**コンソールの検索 (Locate Console)**」を選択します。
- iv) 「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続をクリックし、「**コンソール**」をクリックします。
- v) 「承認待ち」ウィンドウで、ユーザー ID 「**QSECOFR**」とデフォルトのパスワード「**QSECOFR**」を使用してサインインしてください。パスワードを変更してください。
- vi) セキュリティ証明書を受け入れます。

注: セキュリティ証明書を受け入れない場合、接続は確立されません。

コンソール・ウィンドウが開きます。

注: ウィンドウが最初は空白でも、ウィンドウの左上隅にカーソルが表示されている場合は、画面がメディアから表示する情報の提供を待機している状態です。

9. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

- a. 前の手順で作成した QSECOFR のユーザー ID とパスワードを使用してログインしてください。

注: パスワードには大/小文字の区別があります。

- b. DST メインメニュー **b** で、**オプション 3 「専用サービスツールの使用」** を選択します。
- c. 「**オプション 5- DST 環境の処理 (Option 5- Work with DST environment)**」を選択します。
- d. 「**オプション 2- システム・デバイス (Option 2- System Devices)**」を選択します。
- e. 「**オプション 7- 保守ツール LAN アダプターの構成 (Option 7- Configure service tools LAN adapter)**」を選択します。
- f. 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名がネットワーク DNS にも登録されている場合は、そのホスト名を入力できます。ワード Default を入力して、使用する IP アドレスを入力することが推奨されます。
- g. F7 を押して情報を保管します。
- h. F17 を押して、セッションを**非活動化**してから、再度 F17 を押して**活動化**します。これにより、セッションが終了します。

10. 固定 IP アドレスを使用して接続を設定するには、以下の手順に従ってください：

- a. PC とオペレーションコンソールのポートの両方をネットワークに接続するか、PC の IP 設定を変更して、サービスツールの LAN アダプタ用に先ほど設定したサブネットと同じサブネットに属するようにしてください。
- b. ACS インターフェースに戻り、「システム設定」ウィンドウを選択します。
- c. 「**新規**」をクリックします。
- d. この接続を使用して他の機能に接続する場合は、「全般」タブに使用するシステム名を入力してください。
- e. 「**コンソール**」タブをクリックします。
- f. 「LAN コンソール/仮想コンソール (LAN Console/Virtual Console)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
- g. 「**OK**」をクリックし、「システム構成」ウィンドウを閉じます。
- h. ACS メインメニューで、「**システム**」をクリックし、作成したシステムを選択します。
- i. 「コンソール」の下で、「**5250 コンソール (5250 Console)**」をクリックします。ID とパスワードを入力してログインしてください。IPL から続行します。

サーバーのケーブル配線

サーバーのケーブル配線の方法を説明します。

このタスクについて

サーバーのケーブル接続を行うには、以下の手順を実行します。

手順

1. コンソールのケーブル接続とセットアップが完了していることを確認します。詳しくは、[34 ページの『サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ』](#)を参照してください。
 2. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源機構に差し込みます。

注：システムの背面にあるポートを覆っているプラグがある場合は、取り外して廃棄してください。ポート・カバーがあると、初期プログラム・ロード (IPL) の完了後に管理対象システムの管理者パスワードのリセットが必要であることを必ず思い出します。
 - b. システム電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードを電源に差し込みます。
 - c. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、以下の手順を完了します。
 - i) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - ii) PDU 入力電源コードを接続し、電源に差し込みます。
 - iii) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、以下の手順を実行します。
 - ・システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - ・ご使用のシステムに 4 つの電源装置がある場合は、E0 および E1 を **PDU A** に、E2 および E3 を **PDU B** に接続します。
- 注：システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

サーバーのセットアップの完了

管理対象システムのセットアップのために実行する必要がある作業について説明します。

前面ドアをシステム・シャーシの前面に取り付けます。前面ドアを取り付けるには、以下の作業を実行します。

1. 90 度を開くように、ドアをシステム・シャーシに位置合わせします。
2. ドアのヒンジをシャーシの柱に位置合わせします。
3. 各ヒンジを一度に 1 つずつ指で押して、それぞれのピンに押し込みます。

HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了

Hardware Management Console (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下のタスクを実行します。また、仮想化を使用して複数のワークロードを少数のシステムに統合し、サーバーの使用率を高め、コストを削減することもできます。

始める前に

POWER10 プロセッサ搭載システムを管理するには、HMC のバージョンが 10 (リリース 3.0) 以降である必要があります。

このタスクについて

ご使用のシステムにオペレーティング・システムがプリインストールされている場合は、コンソールを開き、オペレーティング・システムにアクセスできるように、MDC (工場出荷時デフォルト構成) モードを終了する必要があります。MDC モードを終了するには、以下の手順を実行します。

1. 「リソース」 > 「すべてのシステム」を選択します。
2. 「システム」 > 「システム・アクション」 > 「システム区画の表示」を選択します。
3. 「属性」で、「一般設定」を選択します。

4. 「電源オン・パラメーター」を選択して、「区画開始ポリシー」を「ユーザーによる開始」に設定します。

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. 管理対象システムのパスワードを変更するには、以下の手順を実行してください。
HMC を使用した管理システムのパスワード設定の詳細については、[管理システムのパスワード設定](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_setpassword_enh.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_setpassword_enh.htm) を参照してください。
2. 詳細システム管理インターフェース (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。
Advanced System Management Interface に接続するには、以下の手順を実行します。
 - a. ナビゲーション・エリアで、**システム・リソース**をクリックし、**システム**を選択する。
 - b. コンテンツ領域で、1 つまたは複数の管理対象システムを選択し、[**Connections and operations > Launch advanced system management (ASMI)**] をクリックします。
3. 管理システムのファームウェアレベルをチェックし、必要に応じて更新する。
システム・ファームウェアの表示とアップデートは、以下の手順で行います：
 - a. ナビゲーション・エリアで、**システム・リソース**をクリックし、**システム**を選択する。
 - b. システムのファームウェア情報を表示するには、ファームウェア情報を表示したいサーバーを選択し、[**Firmware**] > [**View current system firmware levels**] をクリックします。
 - c. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。
詳しくは、[Fix Central Web サイト](http://www.ibm.com/support/fixcentral) (<http://www.ibm.com/support/fixcentral>) を参照してください。
 - d. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。 **Firmware > Update system firmware** をクリックします。
 - e. このタスクを完了したら、「閉じる」をクリックします。
4. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。必要に応じて、ファームウェア・レベルを更新します。
 - a. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。
詳しくは、[Fix Central Web サイト](http://www.ibm.com/support/fixcentral) (<http://www.ibm.com/support/fixcentral>) を参照してください。
 - b. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。ナビゲーションエリアで、**Actions > Update Firmware > System Firmware > Update...** を選択します。
5. 管理対象システムの電源をオンにするには、[の起動](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11haj/crustartsys.htm) を参照してください。 (<http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11haj/crustartsys.htm>)
6. テンプレートを使用して区画を作成します。
 - 新しい区画を作成する場合、ご使用の HMC 上にあるテンプレートを使用できます。詳細については、[テンプレート・ライブラリへのアクセス](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_accessing_template_library.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_accessing_template_library.htm) を参照してください。
 - 別のシステム上に既存の区画がある場合は、それらの構成を取り込み、テンプレート・ライブラリに保存し、区画テンプレートをデプロイすることができます。詳しくは、[パーティション・テンプレート](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_partition_template_concept.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_partition_template_concept.htm) を参照してください。
 - 別のソースからの既存のテンプレートを使用したい場合は、そのテンプレートをインポートして使用できます。詳細については、[パーティション・テンプレートのインポート](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_import_partition_template.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_import_partition_template.htm) を参照してください。
7. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール AIX](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール Linux](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) を参照してください。

- VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[VIOS のインストール \(https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm\)](https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) を参照してください。
- IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[IBM i オペレーティング・システムのインストール \(http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm\)](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) を参照してください。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

Hardware Management Console (HMC) がない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

このタスクについて

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 管理対象システムのファームウェア・レベルおよび時刻を確認するには、以下の手順を実行します。
 - a. 詳細システム管理インターフェース (ASMI) にアクセスします。手順については、 [\(www.ibm.com/docs/POWER11/p11hby/connect_asmi.htm \)](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」 ペインで、著作権文の下の上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 日付と時刻を更新する。
 日付と時刻を自動的に設定するには、**NTP** を選択します。NTP サーバーのアドレスを入力します。「**設定の保管**」をクリックします。
 手動で日付と時刻を設定するには、「**手動**」を選択します。日付と時刻を入力します。「**設定の保管**」をクリックします。
2. システムの電源ボタンを押してください。
3. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール AIX \(http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm\)](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール Linux \(http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installinux.htm\)](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[VIOS のインストール \(https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm\)](https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) を参照してください。
 - IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[IBM i オペレーティング・システムのインストール \(http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm\)](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) を参照してください。

事前に取り付けられたサーバーのセットアップ

ラックに事前に取り付けられて届けられたサーバーのセットアップ方法について説明します。

事前取り付け済みサーバーの設置の前提条件

ここでは、事前に取り付けられたサーバーのセットアップに必要な前提条件を説明します。

このタスクについて

サーバーの設置を始める前に、以下の資料を読むことが必要な場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで保守されています。「[IBM Power システムのインストール](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_roadmap.htm)」を参照してください。S1012 (9028-21B) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_roadmap.htm)。

- サーバーの導入を計画するには、[計画](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_kickoff.htm)を参照してください（http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_kickoff.htm）。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

手順

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。
 - プラス・ドライバー
 - マイナス・ドライバー
2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。
 - HMC バージョン 11 リリース 2.0 以降。
 - グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
 - テレタイプ (tty) モニターとキーボード

事前取り付け済みサーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

このタスクについて

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

配送用ブラケットの取り外しおよび事前取り付け済みサーバー用の電源コードと電力配分装置 (PDU) の接続

コンソールをセットアップする前に、配送用ブラケットの取り外しおよび電源コードの接続を行う必要があります。

このタスクについて



重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
- ESD リスト・ストラップを使用する場合は、すべての電気安全手順に従ってください。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

配送用ブラケットを取り外して、電源コードを接続するには、以下を実行します。

手順

1. システムシャーシの前面と背面に輸送用ブラケットを固定しているネジを取り外してください。
2. 前後の輸送用ブラケットを取り外してください。
3. サーバーをケーブル接続します。
 - a. システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - b. PDU 入力電源コードを接続し、電源に差し込みます。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 7. 使用可能なコンソール・タイプ				
コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	セットアップ手順
ASMI	AIX、Linux、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	システムを管理するために、eBMC にアクセスします (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_accessing_the_ebmc.htm)。
Hardware Management Console (HMC)	AIX、IBM I、Linux、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	サーバーと HMC (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_cable_hmc_standalone.dita) の接続
オペレーション・コンソール	IBM I	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM I 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	サーバーの配線とオペレーションコンソールのアクセス (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ka9/p11ka9_cable_ops_kickoff.htm)。

システムを管理できるようにするための eBMC へのアクセス

IBM® Power Systems サーバーは、システム・サービスの管理、モニター、保守、および制御にエンタープライズ・ベース・ボード管理コントローラー (eBMC) を使用します。eBMC は、システム・イベント・ログ・ファイル (SEL) へのアクセスも提供します。eBMC は、センサーを使用してシステムの物理状態をモニターする特殊なサービス・プロセッサです。システム管理者またはサービス担当員は、独立した接続を介して eBMC と通信できます。

HMC を使用して eBMC にアクセスする

HMC を使用して eBMC にアクセスする方法について学びましょう。

このタスクについて

HMC を使用して eBMC にアクセスするには、この手順に従ってください。

注：HMC を使用して eBMC でシステムを管理するには、HMC がバージョン 10 リリース 3.0 以降である必要があります。

手順

1. HMC 上で DHCP サーバーとして有効になっているポートを特定し、新しいシステムを管理対象システムのネットワークに接続してください。
2. 電源ケーブルの一方の端をシステム背面の電源に接続し、もう一方の端を給電部に接続します。
3. HMC がシステムを検出し、デフォルト名を割り当てます。この名前は使用している DHCP IP アドレスから小数部分を除いたものです。eBMC には「**認証待ち**」の状態が表示されます。
4. HMC がシステムの認証および管理に使用する ID とパスワードの設定を求められます（デフォルトのパスワードは有効期限が切れています）。これは、ASMI へのアクセスに使用する ID とパスワードと同じです。システムパスワードを設定するには、eBMC, を選択し、**[Actions] > [Update System Password]** を選択します。
5. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。
6. 「**システム・アクション**」>「**VMI 構成**」を選択します。ネットワークインターフェースを選択し、**[変更]**を選択します。
注：「**T1**」を選択してください。
7. 「**DHCP**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
8. HMC を使用してシステムの電源をオンにします。システムの電源を入れるには、以下の手順に従ってください：
 - a. ナビゲーション領域で、「**リソース**」>「**すべてのシステム**」を選択します。
 - b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
 - c. ナビゲーション領域で、「**システム・アクション**」>「**操作**」>「**電源オン**」を選択します。

HMC を使用せずに eBMC にアクセスする

HMC を使用せずに eBMC にアクセスするには、この手順に従ってください。

このタスクについて

HMC を使用せずに eBMC にアクセスするには、以下の手順を実行してください：

手順

1. システムの背面にある「**ETH0**」（ポート 0）と、イーサネットポートを備えた PC とを、イーサネットケーブルで接続してください。
2. まだ行っていない場合は、電源ケーブルを電源ユニットに接続してください。パネルには「**01 N**」と表示されています。
3. 上矢印キーを押して「**02**」を選択し、**Enter キー**を押してください。

4. **N** の横に「<」（小なり記号）が表示されるまで、**Enter** キーを押してください。上矢印キーを押してください。「**N**」が「**M**」に変わります。
 5. **Enter** キーを 2 回押します。コントロールパネルに「**02**」と表示されます。
 6. 上矢印キーを、**30** が表示されるまで押し続け、**Enter** キーを押してください。パネルには **30**** と表示されます。
 7. 上矢印キーを押します。パネルには現在、**3000** と表示されています。**Enter** キーを押します。
 8. 表示される情報を記録してください。この情報は、後の手順で必要になります。
 9. イーサネット対応のデバイスに移動してください。お使いのデバイスのネットワーク設定画面を開き、前の手順で記録した IP アドレスから 1 を引いた値を割り当ててください。たとえば、169.254.176.9 を録音した場合は、ノートパソコンに 169.254.176.8 を割り当ててください。このデバイスでは、サブネットマスク **255.255.0.0** を使用してください。これが eBMC's のデフォルト値となります。
 10. お使いのデバイスで、前の手順で使用したアドレスを使用して接続できることを確認し、その IP アドレスに Web ブラウザを接続して、ASMI インターフェースを開いてください。
 11. ASMI インターフェースを使用して、新しい管理者パスワードを設定してください。初回ログイン時のユーザー名は「*admin*」、パスワードは「*admin*」です。
 12. 新しいパスワードを設定してください。
 13. 以下の手順に従って、ETH0 を静的 IP アドレスとして設定してください：
 - a. eBMC, では、「設定」>「ネットワーク」>「**ETH0**」を選択します。
 - b. 「静的 IPv4 アドレスの追加」を選択します。
 - c. IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット情報を入力してください。
 - d. 「追加 (Add)」をクリックします。
 14. システムと PC の現在の接続を解除し、システムをネットワークに再接続してください。eBMC のインターフェースに再度ログインするには、対応している Web ブラウザを開いてください。アドレス・バーに、接続先となる eBMC システムの IP アドレスを入力します。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで **https://<eBMC IP>** という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、割り当てられたユーザー名とパスワードを入力してください。「**ログイン**」をクリックします。
- 注：デフォルトのユーザー ID は「*admin*」で、パスワードは前の手順で指定したものです。

HMC へのサーバーのケーブル接続

Hardware Management Console (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティ・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

始める前に

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、インストールと設定作業 (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_taskflow.htm) を参照してください。

POWER11 プロセッサ搭載システムを管理するには、HMC がバージョン 11 リリース 2.0 以降である必要があります。HMC のバージョンとリリース情報を確認するには、以下の手順を実行してください：

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC の **ETH0** を、管理対象システムの **T1** ポートに接続してください。
2. 複数の管理対象システムを管理できるように、HMC をプライベートネットワークに接続する方法については、「**HMC のネットワーク接続**」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) を参照してください。

ノート:

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、**HMC ネットワーク接続** (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_netconhmc.htm) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法については、を参照してください (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p11hai/p11hai_lanmediaspeed_enh.htm)。
3. 44 ページの『サーバーのケーブル配線』を続行します。

オペレーションコンソールへのアクセス

オペレーションコンソールを使用して、この IBM I オペレーティングシステムを実行しているサーバーを管理できます。

サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス システムにオペレーティングシステムが **IBM I** プリインストールされていない場合

サーバーのケーブル接続方法と、オペレーションコンソールへのアクセス方法について学び、オペレーティングシステム **IBM I** を使用してシステムを管理しましょう。

始める前に

IBM i Access Client Solutions (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>)を使用して、**IBM I** への LAN 接続を介してオペレーション・コンソールにアクセスできます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. サーバー上の LAN コンソール・アダプターに割り当てられた静的 IP アドレスを取得して、コンソールがその IP アドレスを使用できるようにします。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモします。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注: この IP アドレスは、**IBM I** インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用する IP アドレスとは異なります。この IP アドレスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続されている PC 上でこの IP アドレスに ping し、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認します。応答を受信しない状態である必要があります。

オペレーション・コンソールをセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. ネットワーク接続されたパーソナル・コンピューターに **IBM i Access Client Solutions (ACS)** (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) をインストールします。

注: ワークステーションで **IBM i Access Client Solutions (ACS)** を実行するには、Java をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであり、ACS を実行するには Java が必要です。ACS の Java 要件に関する詳細については、**IBM i Access-ACS-Getting-Started** (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-ac-s-getting-started#3.0>) をご覧ください。

注：ローカル管理者として PC にログオンすることが推奨されます。これにより、PC を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権が確実に付与されます。また、最新バージョンの ACS を実行していることも確認してください。詳細については、[IBM i Access - Client Solutions 5733XJ1](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1>) をご覧ください。

2. PC をサーバーに有線接続してください。Cat 5e または Cat 6（推奨）のイーサネットケーブルを PC と、**T1** ポート（通常は最初のイーサネットアダプタの上部または左端にあるポート）に接続してください。イーサネットポートがどこにあるか分からない場合は、お使いのイーサネットアダプタの位置を確認してください。詳しくは、[こちら](#)を参照してください。

表 8. サーバー・オペレーション・コンソール LAN スロット	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN スロット
9105-41B	C7, C8, C9, C10, C11
9105-22A, 9105-22B, 9105-42A, 9786-22H, または 9786-42H	C0, C1, C2, C3, C4, C7, C8, C9, C10, C11
9028-21B	C0, C1, C2, C3
9242-21B または 9242-21T	C0, C1, C2, C3

注：サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行って静的 IP アドレスをオペレーション・コンソール・ポートに割り当てた後に、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳細については、[の要件](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm)を参照してください（http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm）。

3. PC ネットワークを構成します。Windows 搭載の PC を使用して PC ネットワークを設定するには、以下の手順を実行してください：

- a. Windows の「コントロールパネル」を開き、アダプター設定にアクセスします。「コントロールパネル」>「ネットワークとインターネット」>「ネットワークと共有センター」>「アダプターの設定の変更」の順に選択します。
- b. 「ローカルエリア接続」のみが有効になっていることを確認してください。他のアダプタが有効になっている場合は、それらを無効にしてください。
- c. 先ほどサーバーに接続したアダプタを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- d. 「Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」を選択します。

注：オペレーション・コンソールのセットアップ後にデバイスをネットワークに戻す場合は、表示されている IP 情報を記録します。

- e. 「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。これにより、PC が 169.254.x.x の範囲の IP アドレスを受け取るようになります。

4. PC のファイアウォールを無効にしてください。

注：初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

5. PC で、対応しているウェブブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。例えば、Web ブラウザーのアドレス・バーで <https://<eBMC IP>> という形式を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、ユーザー名とパスワードを入力してください。

注：デフォルトのユーザー ID は「admin」で、パスワードは eBMC にアクセスした際に設定したものです。

「ログイン」をクリックします。

6. ASMI を使用してサーバーの電源を入れるには、以下の手順を実行してください：

- a. ナビゲーション領域で、**[操作] > [サーバーの電源操作]** を選択します。システムの電源状態が表示されます。
 - b. サーバーのファームウェア起動ポリシーを「**スタンバイ**」に設定し、設定を**保存してください**。
 - c. **[操作]** の下にある **[電源オン]** ボタンをクリックして、現在の設定のままサーバーの電源を入れます。
7. サーバーの設定を行う IBM I には、以下の手順に従ってください：
- a. インストールメディアを挿入してください。
 - b. サーバーの動作モードを「**手動**」に設定してください。
 - c. パーティションのブートモードを IBM I 「**D**」に設定します。
 - d. ロードソースを IBM I ターゲットのロードソーススロットに設定します。
 - e. 代替の再起動デバイスを IBM I、インストールメディアが挿入されているスロットに設定してください。
 - f. コンソールを IBM I、対象のイーサネットアダプタポートに設定します。
 - g. 設定を保存し、「**OS の実行へ進む**」を選択します。
- 注：**ロケーションコードを使用することで、物理的な部品の配置場所を特定できます。図解を掲載しており、論理ロケーションコードをサーバーまたは拡張ユニットの物理的な位置に割り当てる際の参考となります。詳細については、[を参照してください](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ecs/p11ecs_locations.htm)。 **部品の配置と配置コード** (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11ecs/p11ecs_locations.htm)。
- h. 画面に「**C60041F6**」と表示されたら、次の手順に進んでください。
- 注：**この処理が完了するまで、最大 30 分ほどかかる場合があります。コントロールパネルに「**A6005008**」と表示された場合、システムが利用可能なオペレーションコンソールを検出できなかったことを意味します。IBM I これは、システムにがブリーインストールされていないことを示している可能性があり、コンソールタイプを LAN に設定する必要があります。
8. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
- a. IBM I Access Client Solutions (ACS) を開きます。
 - b. 「管理」の下で「**システム構成**」をクリックします。
 - c. 「**コンソールの検索 (Locate Console)**」を選択します。
 - d. 「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続をクリックし、「**コンソール**」をクリックします。
 - e. D モードで IBM の購入済みメディアを使用する場合は、ユーザー ID 「**QSECOFR**」、パスワード「**QSECOFR**」でサインインしてください。
 - f. 「Lang Feature」ウィンドウが開きます。Enter キーを押します。その後、もう一度 Enter キーを押してください。
9. オペレーティングシステムを IBM I インストールしてください。オペレーティングシステムを IBM I インストールするには、以下の手順に従ってください：
- a. NVM デバイスを準備します。NVM デバイスを準備するには、以下の手順を実行してください：
 - i) サインオンします。
 - ii) 「インストール」 Licensed Internal Code 画面で、**専用保守ツール (DST) の処理**を選択します。
 - iii) [専用サービスツール (DST) を使用] ウィンドウで、**[ディスクユニットを操作]**を選択します。
 - iv) [ディスクユニットの操作] ウィンドウで、**[NVMe デバイスの操作]**を選択します。
 - v) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[既存の NVMe ネームスペースを削除]**を選択します。
 - vi) NVMe デバイスを選択します。
 - vii) 名前空間が一覧にない場合は、**F12** キーを押して、手順 x に進んでください。
 - viii) 一覧に表示されている各ネームスペースで、「**4=Delete**」ネームスペースのオプションを選択してください。
 - ix) 「**F10**」を押して、ネームスペースの削除を確認してください。

- x) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[NVMe ネームスペースの作成]** を選択します。
 - xi) NVMe デバイスを選択します。
 - xii) NVMe デバイスに必要な名前空間の数と容量を入力します。
 - xiii) **F10** をクリックして、名前空間の作成を確認してください。
 - xiv) 「**F12**」を押すと、「専用サービスツール (DST) を使用」ウィンドウに戻ります。
 - xv) 「Licensed Internal Code のインストール」メニューで、「**Licensed Internal Code のインストール**」を選択します。
- b. Licensed Internal Code のインストール。Licensed Internal Code をインストールするには、以下の手順に従ってください：
- i) 「Licensed Internal Code のインストール」ウィンドウで、「**Licensed Internal Code のインストール**」と「**システムの初期化**」を選択します。
 - ii) NVMe 装置のディスク装置を選択します。
 - iii) 選択を確認します。NVMe ディスク装置がゼロに設定され、ライセンス内部コードがインストールされ、区画が DST に IPL されます。これにより、セッションが終了します。
 - iv) 「Access Client Solutions (ACS)」の下にある「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続を選択し、次に「**コンソール**」を選択します。
 - v) ユーザー ID「**QSECOFR**」とパスワード「**QSECOFR**」でログインし、パスワードを変更してください。
 - vi) システムが新しいディスク構成を検出した場合、「ディスク構成に関する注意レポート」が表示されます。**F10** キーを押して、この新しい設定を確定してください。
 - vii) ユーザー ID「**QSECOFR**」と、ご自身で設定したパスワードを使用してログインしてください。
- 注：パスワードには大/小文字の区別があります。
- c. ASP にユニットを追加します。ASP にユニットを追加するには、以下の手順に従ってください：
- i) [専用サービスツール (DST) を使用] メニューで、**[ディスクユニットの操作]** を選択します。
 - ii) 「ディスクユニットの操作」ウィンドウで、「**ディスク構成の操作**」を選択します。
 - iii) [ディスク構成の操作] ウィンドウで、**[NVM デバイスの操作]** を選択します。
 - iv) [NVM デバイスの操作] ウィンドウで、**[NVMe ネームスペースの作成]** を選択します。
 - v) 負荷発生源が含まれている NVMe デバイス以外の NVMe デバイスを選択してください。
 - vi) 指定した名前空間と同じ数と容量を入力してください。
 - vii) **F10** を入力して、名前空間の作成を確認してください。
 - viii) 「**F12**」を押すと、「ディスク単位の操作」ウィンドウに戻ります。
 - ix) [ディスクユニットの操作] ウィンドウで、**[ASP 構成の操作]** を選択します。
 - x) [ASP 構成の操作] ウィンドウで、**[ASP にユニットを追加]** を選択します。
 - xi) 「ASP へのユニットの追加」ウィンドウで、「**既存の ASPs にユニットを追加**」を選択します。
 - xii) ディスクユニットのリストが表示されます。各 NVMe ディスクユニットの「Specify Asp」列に、それぞれ「**1**」と入力してください。
 - xiii) ディスクユニットがシステムの ASP に追加されたことを確認してください。
 - xiv) 「**F12**」をクリックして、「ディスク構成の操作」ウィンドウに戻ります。
- d. ミラー保護の開始。ミラーリング保護を開始するには、以下の手順を実行してください：
- i) [ディスク構成の操作] ウィンドウで、**[ミラー保護の操作]** を選択します。
 - ii) [ミラーリング保護の設定] ウィンドウで、**[ミラーリング保護を開始]** を選択します。
 - iii) **ASP 1** を選択してください。
 - iv) ミラー保護の開始を確認します。このパーティションは、設定およびシステムの IPL を夏時間 (DST) に合わせて更新します。

10. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。
 - a. 前の手順で作成した QSECOFR のユーザー ID とパスワードを使用してログインしてください。
注：パスワードには大/小文字の区別があります。
 - b. DST のメインメニューで、オプション 3「専用サービスツールの使用」を選択してください。
 - c. 「オプション 5- DST 環境の処理 (Option 5- Work with DST environment)」を選択します。
 - d. 「オプション 2- システム・デバイス (Option 2- System Devices)」を選択します。
 - e. 「オプション 7- 保守ツール LAN アダプターの構成 (Option 7- Configure service tools LAN adapter)」を選択します。
 - f. 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名がネットワーク DNS にも登録されている場合は、そのホスト名を入力できます。ワード Default を入力して、使用する IP アドレスを入力することが推奨されます。
 - g. F7 を押して情報を保管します。
 - h. 「F17」を押して無効にし、その後「有効」を押してください。これにより、セッションが終了します。
11. 静的 IP アドレスを使用して接続を設定するには、以下の手順に従ってください：
 - a. PC とオペレーション・コンソール・ポートの両方をネットワークに移動するか、保守ツール LAN アダプターに対して構成したのと同じサブネットに属するように PC の IP 設定を再構成します。
 - b. ACS インターフェースに戻り、「システム設定」ウィンドウを選択します。
 - c. 「新規」をクリックします。
 - d. この接続を使用して他の機能に接続する場合は、「全般」タブに使用するシステム名を入力してください。
 - e. 「コンソール」タブをクリックします。
 - f. 「LAN コンソール/仮想コンソール (LAN Console/Virtual Console)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
 - g. 「OK」をクリックし、「システム構成」ウィンドウを閉じます。
 - h. ACS メインメニューで、「システム」をクリックし、作成したシステムを選択します。
 - i. 「コンソール」の下で、「5250 コンソール (5250 Console)」をクリックします。ID とパスワードを入力してログインしてください。IPL から続行します。

29 ページの『サーバーのセットアップの完了』を続行します。

システムに IBM I 場合、オペレーションコンソールにアクセスする

お使いのシステムに Operations Console がプリインストールされている場合 IBM I、そのアクセス方法をご確認ください。

始める前に

IBM i Access Client Solutions (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>)を使用して、IBM I への LAN 接続を介してオペレーション・コンソールにアクセスできます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. サーバー上の LAN コンソール・アダプターに割り当てられた静的 IP アドレスを取得して、コンソールがその IP アドレスを使用できるようにします。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモします。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注：この IP アドレスは、IBM I インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用する IP アドレスとは異なります。この IP アド

レスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続されている PC 上でこの IP アドレスに ping し、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認します。応答を受信しない状態である必要があります。

このタスクについて

オペレーションコンソールを設定するには、以下の手順を実行してください：

手順

1. ネットワーク接続されたパーソナル・コンピュータに [IBM i Access Client Solutions \(ACS\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805>) をインストールします。

注：ワークステーションで IBM i Access Client Solutions (ACS) を実行するには、Java をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであり、ACS を実行するには Java が必要です。ACS の Java 要件に関する詳細については、[IBM i Access-ACS-Getting-Started](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-accs-getting-started#3.0>) をご覧ください。

注：ローカル管理者として PC にログオンすることが推奨されます。これにより、PC を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権が確実に付与されます。また、最新バージョンの ACS を実行していることも確認してください。詳細については、[IBM i Access - Client Solutions 5733XJ1](https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1) (<https://www.ibm.com/support/pages/ibm-i-access-client-solutions-5733xj1>) をご覧ください。

2. PC をサーバーに有線接続してください。Cat 5e または Cat 6 (推奨) のイーサネットケーブルを PC と、**TO** ポート (通常は最初のイーサネットアダプタの上部または右端にあるポート) に接続してください。使用しなければならないサーバー・アダプター・ポートを確認するには、次の表を参照してください。

表 9. サーバー・オペレーション・コンソール LAN スロット	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN スロット
9105-41B	C7, C8, C9, C10, C11
9105-22A, 9105-22B, 9105-42A, 9786-22H, または 9786-42H	C0, C1, C2, C3, C4, C7, C8, C9, C10, C11
9028-21B	C0, C1, C2, C3

注：サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行って静的 IP アドレスをオペレーション・コンソール・ポートに割り当てた後に、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳細については、[の要件](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm) を参照してください (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER10/p11hbx/hardwarereq_adapter.htm)。

3. PC ネットワークを構成します。Windows 搭載の PC を使用して PC ネットワークを設定するには、以下の手順に従ってください：
 - a. i) Windows の「コントロールパネル」を開き、アダプター設定にアクセスします。「**コントロールパネル**」>「**ネットワークとインターネット**」>「**ネットワークと共有センター**」>「**アダプターの設定の変更**」の順に選択します。
 - ii) 「ローカルエリア接続」のみが有効になっていることを確認してください。他のアダプタが有効になっている場合は、それらを無効にしてください。
 - iii) 先ほどサーバーに接続したアダプタを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
 - iv) 「**Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。

注：オペレーション・コンソールのセットアップ後にデバイスをネットワークに戻す場合は、表示されている IP 情報を記録します。

- v) 「**IP アドレスを自動的に取得**」を選択します。これにより、PC が 169.254.x.x の範囲の IP アドレスを受け取るようになります。

4. PC のファイアウォールを無効にしてください。

注：初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

5. PC で、対応しているウェブブラウザを開いてください。アドレスバーに、接続したい eBMC システムの IP アドレスを入力してください。たとえば、ウェブブラウザのアドレスバーでこの形式 `https://<eBMC IP>` を使用できます。ASMI のログイン画面で、言語を選択し、割り当てられたユーザー名とパスワードを入力してください。注：「**ログイン**」をクリックしてください

注：デフォルトのユーザー ID 「`admin`」 と、eBMC に初めてアクセスした際に設定したパスワードを使用してください。

6. ASMI を使用してサーバーの電源を入れるには、以下の手順を実行してください：

- a. ナビゲーション領域で、**[操作] > [サーバーの電源操作]** を選択します。システムの電源状態が表示されます。
- b. サーバーのファームウェア起動ポリシーを「**スタンバイ**」に設定し、設定を保存します。
- c. **[操作]** の下にある **[電源投入]** ボタンをクリックして、現在の設定のままサーバーの電源を入れてください。

7. コンソール・タイプを LAN に設定します。コンソールの入力を LAN に切り替えるには、以下の手順を実行してください：

- a. エンタープライズ・ベースボード管理コントローラ（eBMC）を使用して、LAN コンソールが使用するイーサネットアダプタポートの位置を設定します。eBMC インターフェースで、**[Server Power Operations] > [Settings] > [IBMi] コンソール** を選択します。
- b. IBMi コンソールを、対象のイーサネットアダプタポートに設定します。
- c. 設定を保存し、「**OS の実行へ進む**」を選択します。
- d. システムに「**C60041F6**」と表示されたら、次の手順に進んでください。

注：この処理が完了するまで、最大 30 分ほどかかる場合があります。コントロールパネルに「**A6005008**」と表示された場合、システムが利用可能なオペレーションコンソールを検出できなかったことを意味します。IBMi これは、システムにがプリインストールされていないことを示している可能性があり、コンソールタイプを LAN に設定する必要があります。

8. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。

- a. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
 - i) IBM I Access Client Solutions (ACS) を開きます。
 - ii) 「管理」の下で「**システム構成**」をクリックします。
 - iii) 「**コンソールの検索 (Locate Console)**」を選択します。
 - iv) 「**検索**」をクリックします。数秒後に接続が表示されます。接続をクリックし、「**コンソール**」をクリックします。
 - v) 「承認待ち」ウィンドウで、ユーザー ID 「`QSECOFR`」とデフォルトのパスワード「`QSECOFR`」を使用してサインインしてください。パスワードを変更してください。
 - vi) セキュリティ証明書を受け入れます。

注：セキュリティ証明書を受け入れない場合、接続は確立されません。

コンソール・ウィンドウが開きます。

注：ウィンドウが最初は空白でも、ウィンドウの左上隅にカーソルが表示されている場合は、画面がメディアから表示する情報の提供を待機している状態です。

9. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

- a. 前の手順で作成した QSECOFR のユーザー ID とパスワードを使用してログインしてください。

注：パスワードには大/小文字の区別があります。

- b. DST メインメニュー **b** で、**オプション 3 「専用サービスツールの使用」** を選択します。
- c. 「**オプション 5- DST 環境の処理 (Option 5- Work with DST environment)**」を選択します。
- d. 「**オプション 2- システム・デバイス (Option 2- System Devices)**」を選択します。

- e. 「オプション 7- 保守ツール LAN アダプターの構成 (Option 7- Configure service tools LAN adapter)」を選択します。
 - f. 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名がネットワーク DNS にも登録されている場合は、そのホスト名を入力できます。ワード Default を入力して、使用する IP アドレスを入力することが推奨されます。
 - g. F7 を押して情報を保管します。
 - h. F17 を押して、セッションを**非活動化**してから、再度 F17 を押して**活動化**します。これにより、セッションが終了します。
10. 固定 IP アドレスを使用して接続を設定するには、以下の手順に従ってください：
- a. PC とオペレーションコンソールのポートの両方をネットワークに接続するか、PC の IP 設定を変更して、サービスツールの LAN アダプタ用に先ほど設定したサブネットと同じサブネットに属するようにしてください。
 - b. ACS インターフェースに戻り、「システム設定」ウィンドウを選択します。
 - c. 「**新規**」をクリックします。
 - d. この接続を使用して他の機能に接続する場合は、「全般」タブに使用するシステム名を入力してください。
 - e. 「**コンソール**」タブをクリックします。
 - f. 「LAN コンソール/仮想コンソール (LAN Console/Virtual Console)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
 - g. 「**OK**」をクリックし、「システム構成」ウィンドウを閉じます。
 - h. ACS メインメニューで、「**システム**」をクリックし、作成したシステムを選択します。
 - i. 「コンソール」の下で、「**5250 コンソール (5250 Console)**」をクリックします。ID とパスワードを入力してログインしてください。IPL から続行します。

サーバーのセットアップの完了

管理対象システムのセットアップのために実行する必要がある作業について説明します。

次のいずれかを選択します。

- [59 ページの『HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了』](#)
- [61 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』](#)

HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了

Hardware Management Console (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下のタスクを実行します。また、仮想化を使用して複数のワークロードを少数のシステムに統合し、サーバーの使用率を高め、コストを削減することもできます。

このタスクについて

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. 管理対象システムのパスワードを変更するには、以下の手順を実行してください。
HMC を使用した管理システムのパスワード設定の詳細については、[管理システムのパスワード設定 \(http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_setpassword_enh.htm\)](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hai/p11hai_setpassword_enh.htm) を参照してください。
2. 詳細システム管理インターフェース (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。
Advanced System Management Interface に接続するには、以下の手順を実行します。
 - a. ナビゲーション・エリアで、**システム・リソース**をクリックし、**システム**を選択する。
 - b. コンテンツ領域で、1 つまたは複数の管理対象システムを選択し、[**Connections and operations > Launch advanced system management (ASMI)**] をクリックします。

3. 管理対象システムのファームウェアのバージョンを確認し、必要に応じて更新してください。
システムのファームウェアを確認および更新するには、以下の手順に従ってください：
 - a. ナビゲーション領域で「システムリソース」をクリックし、「システム」を選択します。
 - b. システムのファームウェア情報を確認するには、ファームウェア情報を確認したいサーバーを選択し、「ファームウェア」>「現在のシステムファームウェアレベルを表示」をクリックします。
 - c. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。
詳しくは、[Fix Central Web サイト](http://www.ibm.com/support/fixcentral) (<http://www.ibm.com/support/fixcentral>) を参照してください。
 - d. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。「ファームウェア」>「システムファームウェアの更新」をクリックします
 - e. このタスクが完了したら、「閉じる」をクリックしてください
4. ご使用のシステムにオペレーティング・システムがプリインストールされている場合は、コンソールを開き、ご使用のオペレーティング・システムにアクセスできるように MDC (工場出荷時デフォルト構成) モードを終了する必要があります。
MDC モードを終了するには、以下の手順を実行します。
 - a. 「システムリソース」>「システム」を選択します。
 - b. コンテンツ領域で、システムをクリックします。
 - c. 「システム設定」をクリックします。
 - d. 「最後の論理パーティションがシャットダウンされたときに電源を切る」チェックボックスがオンになっていることを確認してください。
 - e. 「電源オン・パラメーター」を選択して、「区画開始ポリシー」を「ユーザーによる開始」に設定します。
 - f. 「システム・アクション」で、「操作」>「電源オン」を選択します。
 - g. システムが区画スタンバイ 状態になり、デフォルト区画が非活動 状態になったら、デフォルト区画を選択して、「活動化」を選択します。

HMC を使用したシステムまたは論理区画の始動について詳しくは、[HMC を使用したシステムまたは論理区画の始動](#)を参照してください。
5. 管理対象システムの電源をオンにするには、[の起動](#) を参照してください。 (<http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11haj/crustartsys.htm>)
6. テンプレートを使用して区画を作成します。
 - 新しい区画を作成する場合、ご使用の HMC 上にあるテンプレートを使用できます。詳細については、[テンプレート・ライブラリへのアクセス](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_accessing_template_library.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_accessing_template_library.htm) を参照してください。
 - 別のシステム上に既存の区画がある場合は、それらの構成を取り込み、テンプレート・ライブラリーに保存し、区画テンプレートをデプロイすることができます。詳しくは、[パーティション・テンプレート](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_partition_template_concept.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_partition_template_concept.htm) を参照してください。
 - 別のソースからの既存のテンプレートを使用したい場合は、そのテンプレートをインポートして使用できます。詳細については、[パーティション・テンプレートのインポート](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_import_partition_template.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11efc/p11efc_import_partition_template.htm) を参照してください。
7. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール AIX](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール Linux](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[VIOS のインストール](https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) (https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) を参照してください。
 - IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[IBM i オペレーティング・システムのインストール](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) を参照してください。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

Hardware Management Console (HMC) がない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

このタスクについて

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、以下の手順を完了します。

手順

1. 管理対象システムのファームウェア・レベルおよび時刻を確認するには、以下の手順を実行します。
 - a. 詳細システム管理インターフェース (ASMI) にアクセスします。手順については、(www.ibm.com/docs/POWER11/p11hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」 ペインで、著作権文の下の上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 日付と時刻を更新する。

日付と時刻を自動的に設定するには、**NTP** を選択します。NTP サーバーのアドレスを入力します。「**設定の保管**」をクリックします。

手動で日付と時刻を設定するには、「**手動**」を選択します。日付と時刻を入力します。「**設定の保管**」をクリックします。
2. システムを始動するには、以下の手順を実行してください。
 - a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。

パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。

 - a. 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
 - b. システムの始動中に、進行インジケーターがコントロール・パネルに表示されます。
 - c. コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示します。

手順については、HMC で管理されていないシステムの起動 (www.ibm.com/docs/POWER11/p11haj/startsysnohmc.htm) を参照してください。
3. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール AIX](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[インストール Linux](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_installlinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[VIOS のインストール](https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) (https://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hb1/p11hb1_vios_install.htm) を参照してください。
 - IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[IBM i オペレーティング・システムのインストール](http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) (http://www.ibm.com/docs/POWER11/p11hdx/p11hdx_ibmi.htm) を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

IBM コーポレーション

日本アイ・ビー・エム株式会社

Toronto, Ontario

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions. 本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

IBM Power サーバーのアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動や視覚などに障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるように支援します。

概要

IBM Power サーバーには、次の主なアクセシビリティ機能が組み込まれています。

- キーボードのみを使用する操作
- スクリーン・リーダーを使用する操作

IBM Power サーバーは、最新の W3C Standard WAI-ARIA 1.0 (www.w3.org/TR/wai-aria/) を使用して、ICT アクセシビリティ 508 標準および 255 ガイドライン (<https://www.access-board.gov/ict/>) および Web コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン (WCAG) 2.0 (www.w3.org/TR/WCAG20/) への準拠を確保します。アクセシビリティ機能を利用するためには、最新リリースのスクリーン・リーダーに加えて、IBM Power サーバーでサポートされている最新の Web ブラウザーを使用してください。

IBM 資料に用意されている IBM Power サーバーのオンライン製品資料は、アクセシビリティに対応しています。アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM Accessibility \(https://www.ibm.com/able/\)](https://www.ibm.com/able/) を参照してください。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準ナビゲーション・キーが使用されています。

インターフェースに関する情報

IBM Power サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、1 秒当たり 2 回から 55 回明滅するコンテンツはありません。

IBM Power サーバーの Web ユーザー・インターフェースは、コンテンツの適切なレンダリング、および使用可能なエクスペリエンスの提供を、カスケード・スタイル・シートに依存しています。アプリケーションは、視覚障害者が、ハイコントラスト・モードを含め、システム表示形式の設定を使用するために同等の仕組みを提供します。フォント・サイズの制御は、デバイスまたは Web ブラウザーの設定を使用して行うことができます。

IBM Power サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、アプリケーションの機能領域に迅速にナビゲートできる WAI-ARIA ナビゲーション・ランドマークが組み込まれています。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Power サーバーには、IBM の使用許諾契約書の適用外である特定のベンダー・ソフトウェアが組み込まれています。IBM では、それら製品のアクセシビリティ機能については、何ら保証責任を負いません。ベンダーの製品に関するアクセシビリティ情報については、該当のベンダーにお問い合わせください。

関連アクセシビリティ情報

標準の IBM ヘルプ・デスクおよびサポートの各 Web サイトに加え、IBM では、聴覚障害を持つユーザーまたは聴覚機能が低下しているユーザーが販売サービスやサポート・サービスにアクセスするのに使用できる TTY 電話サービスを用意しています。

TTY サービス
800-IBM-3383 (800-426-3383)
(北アメリカ内)

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM アクセシビリティ \(www.ibm.com/able\)](http://www.ibm.com/able) を参照してください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用について詳しくは、IBM のプライバシー・ポリシー (<http://www.ibm.com/privacy>)、および IBM のオンラインでのプライバシー・ステートメント (<http://www.ibm.com/privacy/details>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』のセクション (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com)® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。世界中の多くの国で登録されています。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、Web 上で「[Copyright and trademark information](#)」をご覧ください。

登録商標 Linux は、世界中で商標の所有者である Linux Torvalds の独占的ライセンシーである Linux Foundation のサブライセンスに従って使用されています。

Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

JAVA およびすべての JAVA 関連の商標およびロゴは ORACLE やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

電波障害自主規制特記事項

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

クラス A 表示

以下のクラス A の記述は、プロセッサとその機能を含むサーバーに適用されます。IBM 以下のクラス A の記述は、Power11 プロセッサとその機能を含むサーバーに適用されます。ただし、機能情報において電磁両立性（EMC）クラス B と指定されている場合を除きます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

以下のクラス A 表示はサーバーに適用されます。

Canada Notice

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product may cause interference if used in residential areas. Such use must be avoided unless the user takes special measures to reduce electromagnetic emissions to prevent interference to the reception of radio and television broadcasts.

Warning: This equipment is compliant with Class A of CISPR 32. In a residential environment this equipment may cause radio interference.

Germany Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

本製品は、EU 加盟国における電磁両立性に関する法規制の調和を目的とした EU 指令 2014/30/EU の保護要件を満たしており、EN 55032 クラス A の許容値に準拠しています。

Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55032 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

--> Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

登録商標です。

IBM Deutschland GmbH
欧州技術渉外部
IBM キャンパス 1
D-71139 ドイツ、エーニンゲン
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

本装置は、**EN 55024** および **EN 55032** クラス **A** の保護要件を満たしています。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値 : IBM Documentationの各製品
の仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (单相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 6 (单相、P F C回路付)
- ・換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 5 (3 相、P F C回路付)
- ・換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラス機器です。この装置住宅環境で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。

VCCI-A

Korea Notice

이 기기는 업무용 환경에서 사용할 목적으로 적합성평가를 받은 기기로서 가정용 환경에서 사용하는 경우 전파간섭의 우려가 있습니다.

People's Republic of China Notice

警告:在居住环境中,运行此设备可能会造成无线电干扰。

Russia Notice

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу А.
В жилых помещениях оно может создавать радиопомехи, для снижения которых необходимы дополнительные меры

サウジアラビア王国からのお知らせ

قد يتسبب هذا المنتج في حدوث تداخل إذا تم استخدامه في المناطق السكنية.

ويجب تجنب هذا الاستخدام ما لم يتخذ المستخدم تدابير خاصة لتقليل الانبعاثات الكهرومغناطيسية لمنع التداخل مع استقبال البث الإذاعي والتلفزيوني.

تحذير: هذا الجهاز متوافق مع الفئة أ من SASO CISPR 32

في البيئة السكنية، قد يتسبب هذا الجهاز في حدوث تداخل لاسلكي.

Taiwan Notice

CNS 13438:

警告使用者：
此為甲類資訊技術設備，
於居住環境中使用時，可
能會造成射頻擾動，在此
種情況下，使用者會被要
求採取某些適當的對策。

CNS 15936:

警告：為避免電磁干擾，本產品不應安裝或使用於住宅環境。

IBM 台湾の連絡先情報:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

FCC の放射制限を満たすためには、適正にシールドされたアース付きのケーブルとコネクタを使用する必要があります。Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation

日本橋箱崎町 19-21

Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

United Kingdom Notice

This product may cause interference if used in residential areas. Such use must be avoided unless the user takes special measures to reduce electromagnetic emissions to prevent interference to the reception of radio and television broadcasts.

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

Canada Notice

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

German Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

本製品は、EU 加盟国における電磁両立性に関する法規制の調和を目的とした EU 指令 2014/30/EU の保護要件を満たしており、EN 55032 クラス B の制限値を遵守しています。

Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

--> Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

EMC 規制の遵守に関する責任は、製造業者にあります：
登録商標です。

IBM Deutschland GmbH
欧州技術渉外部
IBM キャンパス 1
D-71139 ドイツ、エーニンゲン
Tel: +49 800 225 5426
メールアドレス：HalloIBM@de. ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55032 Klasse B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値：IBM Documentationの各製品
の仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (单相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (单相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器（高調波発生機器）です。

- 回路分類 : 5 (3相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラス B 機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としています。

取扱説明書に従って正しくお取り扱いください。

VCCI-B

Taiwan Notice

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

FCC の放射制限を満たすためには、適正にシールドされたアース付きのケーブルとコネクタを使用する必要があります。Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation

Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これら

の資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

(4L) Origin: MX



Printed in Mexico

(1P) P/N: 03KG651

